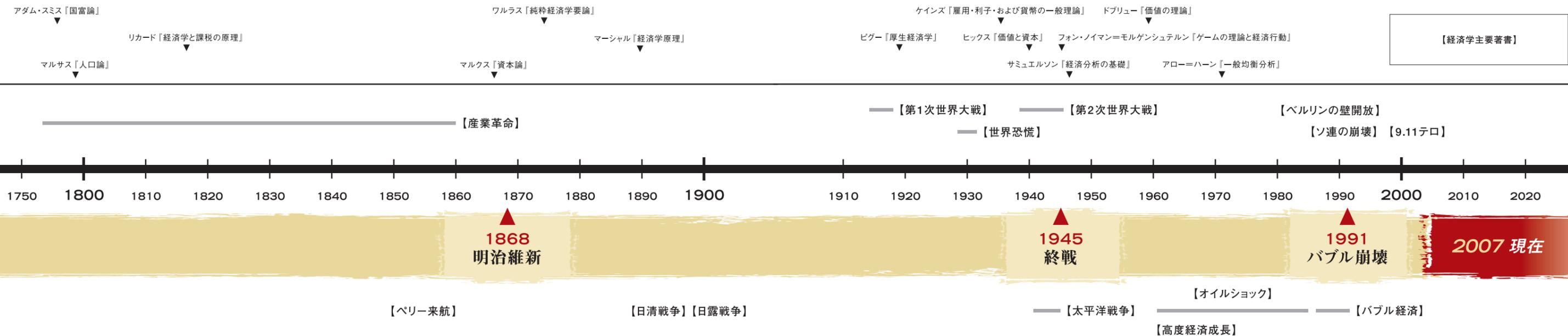




慶應義塾大学
| 経済学部 |
FACULTY OF ECONOMICS 2008

「経済学」って何だろう？



1858 福澤諭吉蘭学塾を創始
[慶應義塾の始まり]

1868 慶應義塾と命名

1890 理財科発足
[経済学部 of the beginning]

1868年(慶応4年)5月15日。
戊辰戦争のさなか、経済学の講義は続けられた。

「上野に大戦争が始まって、その前後は江戸市中の芝居も寄席も見世物も料理茶屋も皆休んでしまい八百八町は真の闇、何が何やら分らない程の混乱」のさなか福澤先生だけはいつも通りウェーランドの経済書の講義を続けた。

『福翁自伝』いわく
「慶應義塾は日本の洋学の為には、世の中に如何なる騒動があっても変乱があっても未だ曾て洋学の命脈を絶やしたことはないぞよ。
慶應義塾は一日も休業したことはない、此塾のあらん限り大日本は世界の文明国である」

福澤諭吉の精神を引き継いだ経済学部の卒業生は「慶應経済人」と称され日本社会の発展に指導的役割を果たしてきました。

「経済学」は 変化する社会を理解する知性。

「失われた10年」と呼ばれる90年代の経済停滞からようやく日本経済は回復しつつあります。その間、世界の経済は大きな変化を遂げました。情報技術の普及(IT革命)と国境や国籍の区別を超えた経済活動の拡大(グローバル化)は世界に豊かさをもたらすと同時に地球規模での経済問題も引き起こしています。また日本国内に限っても少子高齢化を代表とする大きな社会変化を迎えています。経済学は長い歴史の中で常に世の中の現象を読み解き、理論化し、応用実践して経済社会の発展に寄与してきました。そして、ますます複雑化しグローバル化している現代の課題に取り組み日本と世界の明るい未来の建設に挑んでいます。

慶應で「経済学」を学ぼう

入学

1・2年 日吉キャンパス

- 幅広い知識と教養を身に付けます。
- 経済学の基礎を学習します。

学部の壁を超えたキャンパスの中でのびのびと学びつつ興味のある専門分野を見つける時です。



3・4年 三田キャンパス

- 経済学の専門分野を本格的に学びます。

経済理論	計量・統計
学史・思想史	経済史
産業・労働	制度・政策
現代経済	国際経済
環境関連	社会関連

講義の他に、ゼミ、研究プロジェクト、PCP（2005年開設）があります。専門的な知識のみならず、幅広い領域の学識と能力を高めます。



大学院

- 経済学研究科
さらに高度な経済学を学び、研究します。

卒業生はビジネスの世界で日本経済の発展に指導的役割を果たしています。また、政治、行政、教育・研究、芸術・文化など、あらゆる分野で活躍しています。

慶應の経済で「温かい心と冷たい頭」の紳士淑女に

慶應義塾大学経済学部における教育は、精緻な知的訓練と広範な論議を通じて、つねに変化する現実の経済社会を認識し評価する知性を磨くこと、を主要な目的としています。

現実社会のさまざまな問題や課題の多くは、その根底に経済の問題があります。経済学を体系的に理解しその分析手法を習得することにより、それらの事柄について自分なりの判断の基準をもつことができるはず。単にすぐに役に立つ知識を得るというよりも、考え方の基礎を学ぶことが大切なのです。さらに経済学の論理体系は国際的に共通なものが多く、それを身に付けることにより活躍の場が大きく世界に広がります。また、大学は狭義の学問の場だけでなく、幅広い人間形成の場でもあると考えていますので、社会貢献活動やスポーツをはじめとするさまざまな面における学生の主体的な機会が与えられています。それをどう活かしてゆくかは一人一人の意識にかかっています。

慶應義塾の創設者福澤諭吉の『福翁自伝』を読むと、大坂の「適塾」で、優れた仲間と囲まれ、互いに切磋琢磨しながら、一心不乱に学問に打ち込む姿が描かれています。厳しい勉学の合間には塾生同士の楽しい交流もあったようです。これがまさに教育の原点ではないでしょうか。また、上野で戦争が起こり、江戸市中が大混乱しているときに、慶應義塾では福澤先生がいつも変わらず講義を続けていました。そして「慶應義塾は一日も休業したことはない。この塾のあらん限り大日本は世界の文明国である」といって大いに塾生を励ました。このときに読まれていたのがウェーランドという人の経済学書だったのです。このように慶應義塾は早くから経済学を重視し、経済学部の前身である理財科を置いて経済学を体系的に教えてきました。慶應義塾で経済学を学んだ人々は、明治以降日本経済の発展に指導的役割を果たすようになり、「慶應の理財、経済の慶應」と呼ばれる黄金時代が築かれたのです。

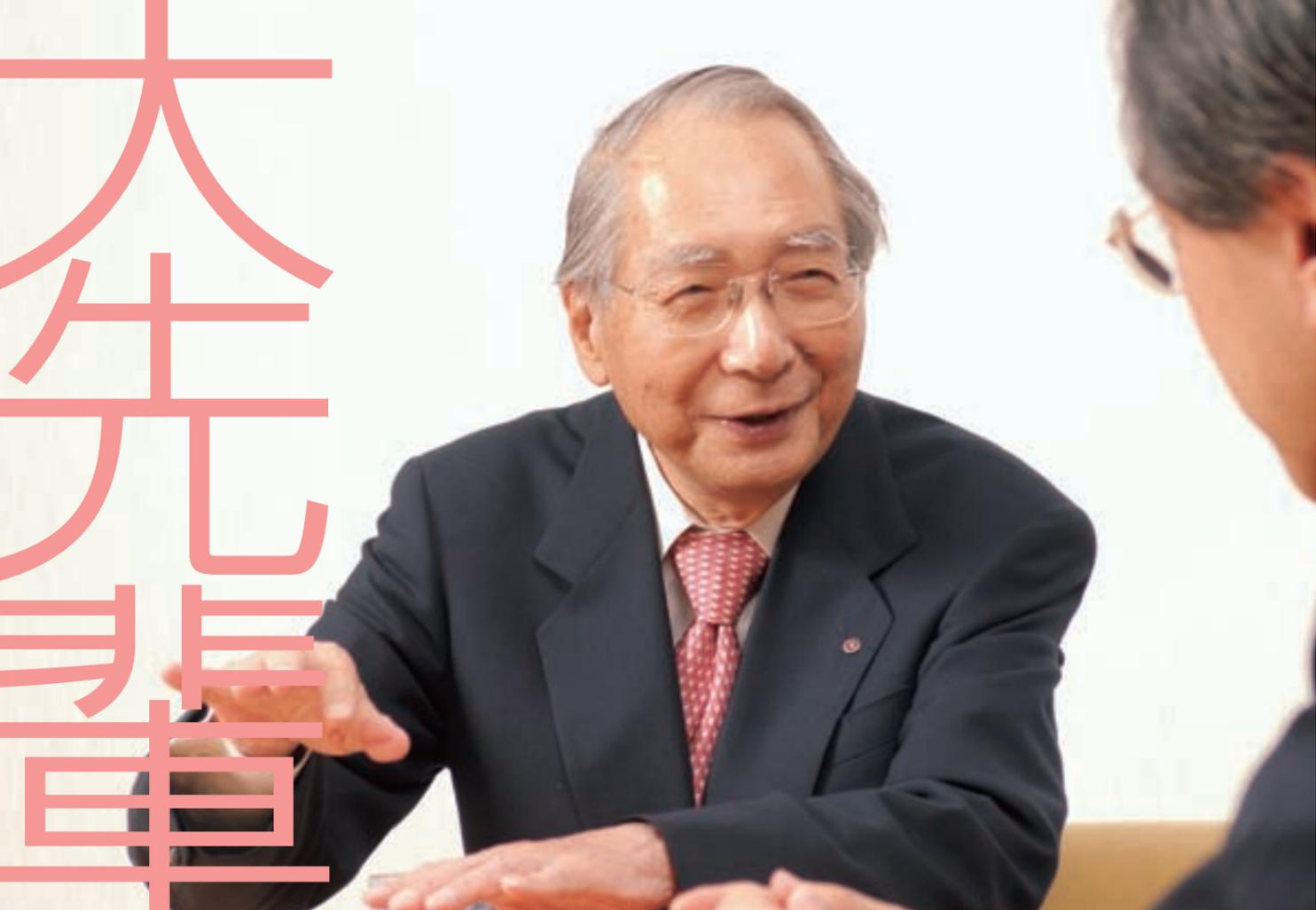
慶應義塾大学経済学部には、こうした伝統が今も脈々として生きています。積極的な意識をもって学生生活を送れば、かけがえのない充実した時間をもつことができるはず。そこで磨かれた知性と、教員、同級生、先輩・後輩との人間的な絆は、皆さんの一生の宝となるでしょう。

経済を学ぶためには、現実社会の中で何が解決されるべきかを見出す「温かい心」と、そうして見出された問題を解決する「冷たい頭」のどちらも必要だといわれています。私たちは、「温かい心」と「冷たい頭」をもち、気概に満ちながらもバランス感覚ある紳士淑女を社会に送り出すことに努力を重ねています。そんな「慶應の経済」で学んでみませんか。



経済学部長
塩澤修平

大先輩



PROFILE 塩川正十郎 / しおかわ まさじゅうろう

1944年 慶應義塾大学経済学部卒業 / 1946年 三晃株式会社設立(代表取締役) / 1964年 布施市(現東大阪市)助役 / 1967年 衆議院総選挙で大阪府第4区に自由民主党から立候補し初当選。
1980年 運輸大臣として初入閣(鈴木善幸内閣) / 以後、運輸・文部・自治各大臣、内閣官房長官、党総務会長を歴任し、2001年4月～2003年9月 第1次小泉内閣で財務大臣に就任。
2003年 10月に政界を引退し、現在は東洋大学総長、(財)日本武道館会長、(財)関西棋院理事長など、精力的に活動している。

元財務大臣

塩川正十郎氏

塩澤修平

慶應義塾大学経済学部学部長

塩爺(しおじい)の愛称で人気を博した、塩川正十郎氏。慶應義塾大学経済学部を60有余年前に卒業後、一般企業を設立。その後政界へと進まれ、各大臣を歴任し、今なお各方面で活躍されている塩川氏を、経済学部長 塩澤修平が訪ねた。



経済学部を選んだ理由は非常に簡潔なものだった。

— これまでの大臣の政策等を見ていますと、なんかこう生きた経済に立脚した視点が非常に感じられるんですけど、その基盤となっている経済学を学ぼうと思われた理由は、なんですか?

「いや、私はね、親父が慶應へ行けっていうから、ああそうか。みたいなもので決めてしまったんですよ(笑) 私としては、みんな集団で田舎の高校に行くと思ってたんですね。ところが、親父が「そんな田舎の学校へ行ったらしょうがない。都会の、それも慶應へ行け」って、願書まで取ってきてね。当時、私は慶應も早稲田も知らなかったんですよ。それから、学部は何処にしようかと悩んでいたら、また親父が「慶應へ行くんだったら、経済じゃないか。それ以外は、あかんぞ」っていうもんですから、学校も学部も非常に簡単に決まっちゃいましたね」



勉強だけでは得られない遊び心まで教えてもらった。

— それで、実際に入学されてからは、どんな学生生活でしたか?

「学部では、高橋誠一郎先生(第8代塾長)のお話は良く聴講しました。あんまり学術的なことを、おっしゃらなかったのが良かったのかな。英国ではこんなことがあったとか、あんなことがあった、例えば英国の地主はどうしておったか、といった実際的なお話をされてましたね。「勉強」というのではなく、「お話」でしたね」

— 古き良き慶應の先生方っていうのは、非常に幅の広い方が多かったですよな。

「話が面白かったですよ。講義がね」

— あらゆる面で精通しているというか、それがあつた種の経済学部の伝統のようですね。非常に狭い学問ではなく、幅の広い学問であると思うんです。

「そうですね。これは、ある先生の話なんですけど、その先生は銀座でバーを運営されてましたね。そのバー、入ってしばらく行ったところが一段低くなっているんですよ、中は真っ暗でね。初めて入った人は、そこでゲーんとつまづくんですよ。それをこちら側で見ている「あ、これは一見さんだ」って、すぐわかるんですよ。そうすると入り口の女性が「予約で一杯ですよ」って断るんです。僕は、その時コツを教わってもらっていたので、合格しましたけどね。そういう遊び心まで教えてもらったな。その先生だけでなく、先生との付き合いは、みなプライベートな感じが多かったですね。その中で、いろんなことを学びました。よく先生のご自宅へ伺ったりしていましたね」

学生時代の自分に、何か言うなら「たまには勉強しろよ!」かな。

非常に頼もしく感じるのは女性の社会参加意識の高さ。

— ご卒業されてから、慶應の良さを感じるの、どんな時ですか?

「大蔵三田会っていうのがありましてね、大蔵の国税局関係に塾出身者が425人もおるんですよ。いや、びっくりしましたね。私が大蔵委員をしていた20年前は寥々たるものでしたから。ここ10年の間に急激に増えたらしいんです。経済産業省や国土交通省にも、ずいぶん塾出身者が増えているらしいですね。その中には、女性も増えていてね。これは、いいことだと思いますよ。その女性たちに聞くと、はっきりとこう言うんですよ「これからは共同社会の時代ですから、何か社会に参加したい。今は税金を担当していますが、将来は税理士をやりたいんです」とね。サラリーマンをしていたら、仕事の適・不適も出てきますし、人間関係も複雑だしね。税理士だったら、自分自身の力でやっていけるという理由らしいんですよ。非常に頼もしいですね」

— 税に関しては、初当選以来ずっと税制調査会に携わっていらっやっやっ、そこでは経済学はどのように生かされていましたか?

「慶應を卒業した後、中小企業を経て政治の世界に入っていますから、企業感覚を持っていて、歴代の大臣とは違ったんでしょうね。役所の者たちが、そう言っていますね。大学では経済原論を、企業では生きた経済を学んだんでしょうね」

— 学生時代には、何のために経済学を学ばかっというのが分からずに、社会に出て初めて実感するものなんですよな。経済学は、全てに通じている学問ですからね。

「学生時代は、学問よりもハンドボールや登山に熱中しておったので、勉強の方はあんまりやってなかったんだけどね。今になって思えば「たまには勉強しろよ」と自分に言っていたいね」



現在は、東洋大学の総長もされている塩川氏。学生の教育問題や就職問題にも精力的に取り組まれている。企業に対しては、ワークシェアリングを提案。「若者に活躍の場を提供してほしい、海外へもどんどん行かせてほしい」という塩川氏の考えに、賛同する企業も着実に増えている。政界でも、教育界でも、高い問題意識を持って活動されている塩川氏の根幹には、非常に多様性のある経済学部時代に培われた、慶應魂が宿されているようだ。

親父が「慶應へ行け! それも経済だ!」って言うから、ああそうか。ってね(笑)

東京海上日動火災保険株式会社の相談役でありながら、慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程に在籍中の樋口氏。その学ぶ姿勢の根源について、さらには、経営者の視点で見た経済学について伺った。



PROFILE 樋口公啓 / ひぐち こうけい
 1960年 慶應義塾大学経済学部卒業 / 1960年 東京海上火災保険株式会社入社
 1996年 同社 取締役社長就任 / 2001年 同社 取締役会長就任
 2003年 同社 相談役就任 / 2004年 東京海上日動火災保険株式会社 相談役(現職)
 2005年 慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程修了
 2007年 慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程(3年在学中)

東京海上日動火災保険株式会社
相談役

樋口公啓氏



慶應義塾大学経済学部
学部長

塩澤修平



塩澤 現在、現役の大学院生でいらっしゃいますね。一度ご卒業され社会で何十年も活躍されてから、改めて学ぶというのは、随分と違いを感じられていますか？

樋口 そうですね。大学院ではやはり勉強中心になっているということで一寸違った感覚ですかね。大学時代には、友人とのつき合いにウェイトがあった。あまり模範的な塾生ではありませんでしたからね。マージャンばかりやっていたね。(笑) 大学院の受験をする時に、初めてマルクスとかケインズとかを勉強して、当時やればもっと面白かったのかな、というふうにも思いました。あと、先生方から色々なお話を伺いながら、別の価値基準で自分の中で反芻して考えてみる癖がついているように思います。先生方が言われることを、もう一回本を読み直してみたり、自分で考え直してみたりして自分なりの答えを導き出すようにしています。

塩澤 教える教師も、学生たちも、社会で経験を積んだ方が入ってこられると、良い影響を受けますでしょうね。

樋口 そういうプラスになるような学生でありたいとは思っていますね。

— 会社は社会の為に存在する

塩澤 社会に出られて、経済学的重要性を痛感されたということでしょうか。

樋口 そうですね、学生時代は会計学とか簿記とか商学関係を中心にやっていたように思いますが、会社に入ったあと若い頃に配属された人事部では、いろいろと考えねばならなくなりました。給与制度改革の事に回されたんですが、そこで「サラリーマンにとって給与とはどういう意味があるのか」「給与制度とはそもそも、どういう意味があるのか」「労務管理とは何か」といったところから始まって「会社とは一体何の為に存在するのか」といったところまで考えざるをえなくなりました。それぞれに疑問が生じると、それに関連する本を読む必要が出て、仕事に関連しているいろいろな興味が沸き出してきましたね。

塩澤 企業として競争の中で存続するための経営と、社会的な使命との兼ね合いについては、どのようにお考えですか？

樋口 会社というのは、社会の為に存在しているんですよ。社会の為に社業を通じて何らかの貢献が出来なくなったら、会社は存在している意義がないと私は思っています。利益だけ上げようと思ったら、我々の会社も損保は辞めて、資産運用だけで食っていったほうが、ひょっとしたら儲かるかもしれない。(笑) でもそれは、許されないことだと思っていますよ。

塩澤 確かに、最近一部では、本業が何で収入源が何かわからない企業が結構出てきていますね。不祥事も多いですし。

樋口 私共も、外資系のコンサルティングファームに来てもらったりしたことがあります。その方たちは口を揃えて「私たちは会社の企業価値を上げるために雇われている」と言っています。それで、「企業価値って何だ？」って聞くと「株価です。時価総額です」と答える訳ですよ。私も色々な新興企業ともお付き合いして、今日は時価総額が何兆になったのだ、次の日になったら何兆になったのだの言っているのを聞きました。豆腐屋じゃあるまいし……って思うんですよ。(笑) 私共は、そういうことで一喜一憂するような経営は全く考えていません。経営理念とも哲学とも一致しないから、そんなコンサルティングは必要ないって思いましたね。



時価総額が今日は何兆、明日は何兆
豆腐屋じゃあるまいし……(笑)

— 利潤追求は正しい ただやり方の問題

塩澤 経済原論などでは、企業は利潤追求であることを説いていますし、経済学というのは、ある意味では誤解されやすい学問なのかもしれませんね。

樋口 基本的に利潤追求というのは正しいと思いますよ。ただやり方の問題なんですよ。

塩澤 十数年前のバブル期には、企業のメセナや社会貢献が、ある種のブームになっていましたが、その後の不況期にはかなり減少しましたよね。また最近経済全体が上向いてきて、そうした時に、企業は何を一番心して行こうか、ということですね。

樋口 一皮むけば儲かりさえすればいいという思想の方は財界にもおられるようですが、やはり利益だけを追求していたのでは、会社は存続する意味がないと、私は思っています。今の時代にそれを強調すると、時代遅れだなんて言われたりもしますが、時代の問題ではない。古来君子と小人の違いは窮した時にみだれるかどうかだと言われますが、今はみだれる人が多い。みだれていると気がついてさえないのかもしれない。

— 先輩に桶ついたこともある 信念は曲げたくなかったから

塩澤 これから大学に入ろう、あるいは社会に出ようという人たちに、ぜひ伝えたいことは？

樋口 まず、自分の頭でよく考えること。そして考える時には、狭い視野にならないように、いろいろな意見に耳を傾けて吸収してほしいですね。その時点で、いろいろ学校で学んだ事が非常に役に立つと思います。もちろん実社会で学ぶこともありますし、勉強の幅が広がって行くに従って、いろいろな考え方ができるようになりますから。そして、柔軟に物事を考えると同時に、ある種の頑固さを持ってもらいたいですね。私も若い頃、会社の先輩に桶ついたこともありました。自分の信念は曲げたくなかった。でも、結果的には不利な扱いを受ける事もなく、とにかく社長にまでなった。とにかく、自分でこうだと思ったら、そちらへ迷わず行くということです。それで結果が悪かったら悪かったで仕方がないんです。自分の人生なんです。人の言う通りにやって上手くいかなかったら、ますます悔いが残りますよね。みなさんには、悔いのない人生を送ってほしいと思います。塾出身の同僚が会社の生活はマラソンみたいなのだと書いていたのを思い出します。とにかく前を向いて寄り道や近道をしないでひたすら走っていく。気がついてみると一緒に走っていた人が一人消え、二人消え、最後は運よく転んだり、怪我しなければ一人で走っているというわけです。そういうものかもしれませんね。

こうと思ったら、迷わず行く
自分の人生なんだから

経済学部を卒業後、社会で活躍され、さらに学ぶ意欲に溢れる樋口氏。「自分は学ぶ環境に恵まれている」と言って顔をほころばせながらも、凜とした姿勢でインタビューにお答えいただきました。その姿勢は、「人の意見に耳を傾け、柔軟に思考し、信念を貫く」というメッセージを、まさに体現されているようでした。



「慶應では、〈先生〉は福澤諭吉先生だけ。
これは、卒業してみないと分からない福澤精神だね」

菊池廣之氏

極東証券株式会社 | 代表取締役

金融人、経済人になりたい。
目標のために選んだ経済学部。

「やっぱり、自分が将来大学を出たら、どういことをやるんだらうと、そういうことを描きながら学部を選ぶべきじゃないですかね」と語る、極東証券で代表取締役を務める菊池廣之氏。自身を例に「経済学部に行ったのは、やっぱり自分は金融人になりたい、経済人になりたいというビジョンがあったから。例えば金融界からは、工学部にも募集がかかる。でも、やっぱり経済で生きるには、経済学部がいいだろう、と思って志望しましたよ」目標のためには様々な道、そして選択肢があるが、自分は王道を行こうという決意が見て取れる。そんな決意を持った経済学部で学んで一番良かったのは、経済の基礎を学ぶことで、抵抗感なく社会に入っていくことができた点。「例えばプライムレートしかり、日銀の当座預金しかり、いわゆる金融用語を勉強したことで、仕事上の言葉がスムーズに入ってきましたね。他の大学の一般学生からすると、分からない

言葉がね。ゼミでも金融経済をとったので、証券や経済に親しみを覚えて、それが今でも非常に役立っていますね」、とにかく経済という分野は、これだけはAを取ろうと決め、とことん勉強した。

勉強の虫が人脈の虫に。
年数が経つほど、愛校心が増す。

高校時代は、ひたすら勉強の虫だったが、大学に入ってから人脈づくりに注力した。「うちの親父なんかは、全部、仕事を通じての勝ち負けの付き合いだから、本当に自分の本音を相談する相手がないんですね。それにひきかえ、大学時代というのは、ゼミやクラブ活動など、人格形成の中で、かけがえのない時期になるんじゃないでしょうか」そんな中でも特に、慶應義塾、その中でも経済学部を卒業して、感じるのこんな場面である。「社会人になって、ちょっと堅い雰囲気の時でも、学校どこ出たの?なんて話になって、慶應の経済を出たっていうと、なんとなく場が和らいだりしてね。これは

ありがたいことですよ。これが伝統のある学校、伝統のある学部の特長なんじゃないですかね」これは、卒業してすぐよりも、年数が経つ程強く感じるのだと言う。20年30年経つにつれ、愛校心が増すのが慶應の良いところだとも。さらに、「慶應では、〈先生〉は福澤諭吉先生だけなんです。あとは〇〇さんでいい訳。これが他の学校だと、やっぱり先生って言わなければならない。慶應の場合は、塾長も公式の場では〈君〉と言っていますからね。そういう点が福澤精神なんじゃないですかね。いいですよ。これはもう、卒業してみないと分からないですね」現在、会社を経営する立場になった菊池氏は、利益を積極的に社会に還元している。「海外に行くと、美術館でも何でも寄付って多いじゃないですか。日本は少なすぎる。やっぱり会社をやっている、ある一定の儲けが出たら、それを還元するというのは当然のことなんじゃないですかね」慶應の経済学部での教えは、この社会貢献に積極的に参加する精神にも表れているのではないだろうか。

The present

上場することで、社員の規律意識が変わる。それが次の飛躍に繋がる。



同じ金融機関でも、銀行に比べると、学生さんたちには親しみが少ないのかもしれないですね。預金通帳なんかを学生時代から持っているんだから、これは仕方のないことですね。証券会社というのは、昔は株の売り買いだけだったんですが、今では国の発行する国債だとか、企業が発行する社債、あるいは外国の外債を販売するなど、非常に多種多様なものをお客様に提供するというふうになりました。また、私も極東証券は、4月に東証の2部に上場しました。そこでよく聞かれるのが、上場の目的は何なんですかっていうことなんです。よく資金調達しやすいとかね、人材確保しやすいと言われる

が、そんなことは当たり前のことでね。いわゆる上場っていうのは世間の目にさらされることなんだと、全社員に規律に対する意識が働くということ。世間の評価を気にすることが、さらに次の飛躍に繋がるんだと、そのために上場したんだって言うと感心されるんです。それからやっぱり、経済人であるからには、やはり東証の第一部の上場企業として立派な経営をしたいですね。株主数を増やして、来年の今頃には、東証一部に昇格出来るよう頑張っています。「貯蓄から投資へ」というメガトレンドの中でいい仕事をしていけば、利益も上がるし、世の中に役立つこともできるんじゃないかと思っています。

PROFILE 1964年 慶應義塾大学経済学部卒業
1964年 野村證券株式会社入社
1972年7月 極東証券株式会社入社 / 1979年12月 同社代表取締役社長就任(現)



「明日すぐ使える、薄っぺらな知識ではダメ。
応用力がある、考え方の基礎を学ぶ。それが経済学部」

中尾哲郎氏

株式会社テレビ東京ダイレクト | 取締役

お互いに支え、刺激しあえる。
慶應だから、今の友を得られた。

映像が大好きで、学生時代はひたすら映画を見たり、つくったり、というのが生活の軸になっていたという中尾哲郎氏。大学生生活では、一生の友を得ることができたという。「授業があり、ゼミがあり、クラブがあり、それぞれのテーマの中で議論を戦わせたり遊んだり。そんな経験の中で沢山の友人ができ、いまだに、お互いに支えあい、刺激しあうことができる、っていうのは非常にありがたいと思いますね」慶應義塾大学出身者の結束の強さは、他大学では類を見ない。これは、慶應出身者のほとんどが口を揃えて言う特長である。そんな慶應の中で、なぜ経済学部を選んだのか。「当然、慶應は理財科っていうイメージもあったんですけど、福澤諭吉先生が、日本の近代における経済システムや、マスコミュニケーションシステムをつくられた、おそらく最も核になる学部ではないかと思って。その一番根っこにある学部で、自分が何を得られるかというのが一番楽しみであったんです」

応用力の高い経済学。
ヒット番組は、経済理論から生まれた。

では、経済学部で何を学んだのか。「具体的にこれがミクロ経済学だよ、これがマクロ経済学だよっていうものではなく、世の中に出て、仕事や生活の中で全てのことを応用して判断していくための基礎を学んだと思います。経済学部というのは、具体例を読み取るための手段やノウハウは君たちに与えるから、あとは自分で読み解く力をつけなさい。という感じですね。だから、応用が非常にききやすい」その応用性の高さも、学部を決める時の判断材料のひとつになった。それは、社会に出てからも実感している。「経済学部では、その辺のノウハウ本にあるような明日すぐ使える知識ではなく、全体像を眺める視点と、それを分析する知識を得られます。経済学はしっかり応用さえできれば、実際に社会に出た時に非常に使える学問ですね」学ぶ者が、問題意識を持つことが重要であると前置きしながらも、代表作のひとつ『開運!なんでも鑑定団』を例に、こう語る。

「鑑定団の基本的な値段のつけかたという部分の発想は、価値インフレのバブル経済が崩壊後の日本で、「物の持つ真の価値は何か」という疑問からです。限界効用の逓減の法則や「神の見えざる手」など、さまざまな経済理論のアプローチが入っているんです。何がどう流行りの中で動いているかテレビの放送の中でこういった傾向の番組が増えているかとか。マクロの見方ができると、そういった大きな流れが、世の中の景気動向とリンクしているというのに気付く訳です。それに気付いたら勝ち。気付いたら、その次を読めばいいんですから。その読み方っていうのを、経済学では教えてくれるんです」まさに、ヒット番組を次々とくり出した、中尾氏ならではの感覚だ。さらに、卒業してからわかったこととして後輩たちへ一言。「明日使える知識も大切。でも、大学で学ぶものっていうのは、使い捨ての知識ではない。やはり、全般の要素と応用力の高い学問を選ぶべきだと思います。それが経済学。あとから、非常に使い勝手が良い学問になってきますよ」

The present

中学時代の夢が叶った。今は、まだチャレンジしている真っ最中。



入社以来ほとんど番組の制作現場、ディレクターからプロデューサーという仕事をやってきました。途中一時期、日経新聞に志向して新聞記者をやったり営業で、番組セールスをしたという時期もありましたけれども、おむね番組の制作企画をやり続けていました。2003年からは、劇場用映画の出演、買い付けという仕事をしています。僕のキャリアそのものは番組の制作で、それは中学時代からやりたかった夢が叶った形ですね。番組を作っていて、自分でもそれなりの作品を残してきたかなと思っています。最近の例で言えば、いまだに続けているのは97年にスタートした「おはスタ」という作品で、毎朝7時からやっている

子供向けの番組ですね。それから94年にスタートさせて、現在も続けている「開運なんでも鑑定団」という作品を生み出すことができたこと、また、それがまだ残っているということに誇りを感じていますね。あと、2年前から携わっているコンテンツ事業では、ちょうど2005年にアカデミー賞を受賞した『ミリオンダラーベイビー』という作品を苦心して、買付けることができたのが大きな仕事だったかな、と思いますね。あと、テレビ東京では、ポケモンというコンテンツがあり、その映画化ということで、映画出演については、大きな柱を持ちながらそれ以外の部分で、今はいろいろなチャレンジをしている真っ最中ですね。

PROFILE 1979年 慶應義塾大学経済学部卒業
1979年 東京12チャンネル(現・テレビ東京)入社 制作現場にて番組づくりをし、代表作としては「おはスタ」「開運なんでも鑑定団」
2003年 同社コンテンツ事業局にて劇場映画の買い付け、出演を手掛ける



「経済学は、どんな仕事にも必要。 いろいろな分野で必要とされているのを実感」

駐日英国大使館 | 金融担当官 | **奥由香氏**

なんとなく、は通用しない。
だから数字の裏付けが必要。

経済学部を選んだ理由も、その後のキャリアも同級生と比べて一風変わっていると自身で語る奥由香氏。「経済学部を選んだのは、なんかこう一番知らない分野だったからなんです。選択の自由がある中で、どうせやるなら、知らない、動きの激しそうなのをやってみようかなって。こんな風に言ったら怒られるかもしれませんが、そういう興味が強かったからなんです。ちょっと変わってますよね。イギリスの大学院留学から帰国し、その後大使館に入ったというのも同級生からすると珍しいほうです」そんな彼女の知的好奇心を満たしたのは、英語と統計学だった。「英語に関しては、大学が私にとってのスタートになったと思います。英語をちゃんとネイティブスピーカーの先生に習って、人が英語で意思疎通できるんだって、話していて面白いなって思ったのが初めてでしたね。ロンドン留学のきっかけにもなったんじゃないでしょうか。統計学については、ロンドンで経済を勉強する際に、非常に役立ちました。慶應で統計に興味を持っていなかったら、そういう方向に

進んでいなかったでしょうね。マクロとミクロ経済学の基礎知識がなかったら多分ついていけなかったと思います」さらに統計学について「経済学って結構難しいというか、予測なんかをする時に、人を論破するのがすごく難しいですよ。なんとなく思うっていうのだと説得力がないんですよ。もちろんそういった感覚も必要ですが、そんな中で統計学を活用して数字で分析すると、それをサポートするデータができたりして。そういう手法があることを知ったというのが、すごく面白かったです」他に印象に残っている授業に、国際経済がある。「歴史は歴史、理論は理論、現状は現状にどうしてもなりがちですよ。それが、一つの線に繋がったのが国際経済の授業だったんです」経済学部の教養は直接的にも間接的にも、今の彼女を支えている。

その先の選択肢が多い。
これが学部選びの方法。

大学や学部選びのアドバイスも、肩に力を入れない自然体。「私もそうでしたが、高校生の時点で『自分は将来何をやりたい』って、はっきり言える人

は少ないと思うんですよ。大半の方が、曖昧な意識の中で学部選びをすることになる。そうすると変な選び方もかもしれませんが、その先の選択肢が一番多そうな学部を選ぶというの、ひとつの方法かな。経済学というのは、どんな仕事をするにしても必ず必要なものですから、非常にいいのではないかと思いますよ」それは、同級生を見ているのも実感するという。「最初は金融に就職した同級生たちも後に転職しているんな分野に散らばっています。それで分野を変えて苦労したっていう話は聞かないんです。いろんなところで活用できて、且つ必要とされているのが経済学なんだと、強く感じています」そんな経済学部の友人たちは、何か困ったことがあれば、すぐにメールで教えてくれるという。今でも頼れるかけがえのない存在だ。

The present 経済学は、ものを見るひとつの見方。それを仕事にも繋げたい。



大使館の金融関連担当官をしています。日本の金融システムの現状や動向など、日本の金融に関する情報を収集分析して、英国に伝えるという仕事をしています。英国の金融政策の決定のために活動しています。専門的知識とかは分からないんですが、金融政策担当者やレギュレーターが何をしているのかを理解して、必要な情報・分析を報告することや、メディアの報道の中でリークされたりする情報が確かなものか検証したりといったことをしています。大使館としては日本の政府と直接対話をして、ほかではとれない情報をいただいています。また、経済学部で学んだことは、常に仕事場で使っ

ていますね。経済学っていうのは、物を見るひとつの見方ですから。何か物事を言う時に、統計の話に落として行くやり方と、企業行動を見るにしても何にしても、ミクロエコノミクスに落とすか、マクロの循環を過去と比べるとかありますよね。なにかこう曖昧な感じから、ちゃんとした議論とか、数字に落としていく中で、経済というのは非常に重要な考え方ですね。できるだけ感覚に頼らず、経済学を活用できればいいなと思っています。理論と現実の乖離があったりして、個別に見ればわかるんですけど、それを普段からひとつひとつ繋げるっていうのは、なかなか難しいですけど。

PROFILE 1988年 慶應義塾大学経済学部卒業(財政理論専攻) / 1998年 LSE(London School of Economics and Political Science), University of London, Diploma in Economics 取得
1999年 同大学院 Mscin Economics 取得(金融政策論専攻) / 1988年富士銀行入行 / 1993年 Credit Suisse First Boston 証券会社入社 / 1999年 JETRO London勤務 / 2001年 英国より帰国
2002年 駐日英国大使館 経済金融部 金融担当官(日本の金融システム動向に関し、英国政府、中央銀行、英国金融庁へ調査報告、2006年春時点)

経済学部生の年間イベント

EVENT



□ 入学式(日吉キャンパス)



□ 慶早レガッタ



□ 六大学野球



□ 大学ラグビー



□ 三田祭



□ 福澤先生ご命日 / 墓参り

04
April

05
May

06
June

07
July

08
August

09
September

10
October

11
November

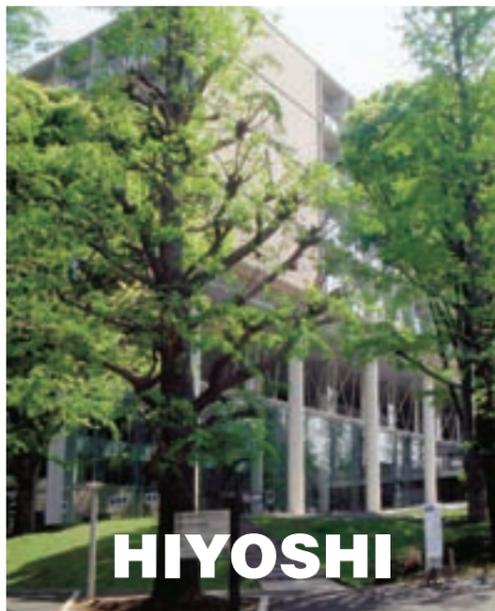
12
December

01
January

02
February

03
March

- 入学式
- ガイダンス
- 慶早レガッタ
- 春学期授業開始
- 開講記念日
- 福澤先生ウェーランド経済書 講述記念講演会
- 慶早戦(野球)
- 福澤先生誕生記念日
- 福澤先生ご命日
- 夏季休業
- 春学期末試験
- 大学ラグビー
- 三田祭
- 慶早戦(ラグビー)
- 三田祭 / 研究発表会を終えて
- 冬季休業
- 福澤先生誕生記念日
- ISFJ 政策フォーラム
- 春季休業
- 秋学期末試験
- 卒業式



HIYOSHI



□ 入学歓迎行事 日吉能 「清経」



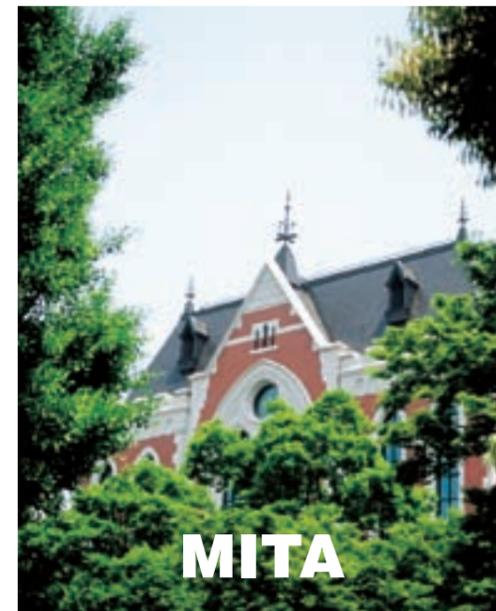
□ 塾長と日吉の森を歩こう



□ 入学歓迎行事 学生企画



□ 新入生歓迎公演



MITA



□ 入ゼミ説明会(2年生対象)



□ ソフトボール大会



□ 三田祭 / 研究発表会を終えて



□ ISFJ 政策フォーラム



学部って、どうやって
選べばいいの？

将来の夢って
急に言われても…

入試には、何を
準備すればいいの？

今、悩んでいるあなたに
ぜひ、聞いてほしい。

先輩たちの「快答」集

学部選びは、自分の将来の道を決める大切な一步。

だからこそ悩みを抱えている方も多いはず。

ここでは、つい最近までみなさんと同じような悩みを抱えていた

先輩たちの経験や、現在の学部生活までをご紹介します。

入学してからの、自分の姿をイメージしながら、

ここで学部選びの答えを出してください。



Q.01 | どの学部に入っても 同じなんじゃない？

「伝統があるし、社会で活躍されている方が多いから」と親に勧められている

高校時代は、自分が何をしたいのが漠然としていました。どこに入っても同じなんじゃないかって。そんな時に親から「伝統があり、社会で活躍されている方が多い慶應の経済学部に入ったらどうだ？」って言われて、「ああ、そうだなあ」って感じて決めてしまいました。大先輩の塩川元財務大臣 (P6~P7にインタビュー記事があります) と同じきっかけだと思うと感慨深いですね。(笑) 今思えば、何のために大学に行くのか、自分の中で整理しておくべきだったと感じています。それを強く意識するターニングポイントになったのが2年生の時でした。



経済学部3年 星 浩之

僕の答え

「今」できることを積極的に考えて！
経済学は、頑張りに答えを出してくれる。

慶應や早稲田の学生を中心に構成される国際学生シンポジウムの運営委員になったことが大きな転機となりました。全国から200名が集まるこのシンポジウムの運営委員には慶應の経済学部の先輩方も多く、「経済学を120%楽しもう」とする姿勢にすごくインスパイアされたんです。



3年になってからは、PCP (P46参照) の授業を選択し、モチベーションの高い仲間と柔軟な考え方で国際経済を学んでいます。PCPで学ぶことで、海外や院での活躍など将来の可能性が広がると考え選択しました。カナダへの交換留学についても同じ考えから参加を決意。1年間で自分をどれだけ追い込めるか、今から楽しみです。

きっかけは何であれ「入学してからの頑張り」にしっかり返事を出してくれるのが経済学だと思います。何十年後に後悔しないように、「今何ができるか」を積極的に考えてみるべきだと思います。

Q.02 | 数学が苦手でも 経済学部で大丈夫？

外交官になる夢を実現するために、
苦手意識を克服したかった。

高校の頃から、青年海外協力隊の話などを聞いて外交官になりたいと思っていたので、法学部か経済学部を選択しようと考えていました。ネットで授業内容を調べてみると、経済学部に「開発経済学」の授業があり、興味を持ちました。ただ、数学があまり得意ではなかったので、経済の専門的な議論について行けるか不安でした。やはり、経済学部では数学を使う授業が多いので、苦手意識を持たずにしっかりやっておけば良かったと実感しています。そのためにも、私は社会受験ですが、あえて数学受験者と同じ授業を選択し、苦手を克服するよう努力しました。



経済学部4年 田中 祐見

私の答え

優秀な仲間が集う、経済学部のゼミで
自分の考えをしっかりと持つことを学ぶ。

慶應の経済学部は、非常にゼミ (P20参照) が盛んです。優秀な先輩や同級生に囲まれ、充実した活動ができましたが、昨年の三田論^{*}作成ではとても苦労しました。4人編成のチームでしたが、最初はチーム内の雰囲気も悪く論文のテーマも決まらず…といった状態。最終的にはリーダーを決め、すばらしい論文が発表できたことで、その時の仲間とは今も毎週飲みに行くほど仲良くなりました。

また、3年生の時には、就職のために外部講師の方からお話を聞ける授業があり、特に金融業界について、早い段階から理解が深まりました。講師の方のお話を聞き、金融業界への就職を決断できたと思っています。企業が求める「自分の考えをしっかりと持って行動できる人材」の形成に、経済学部で培った能力が、非常に役立ちました。

高校の時とは、漠然とでも良いので「自分が将来何をしたいか」を考えるべきではないでしょうか。しっかり考えて出した答えなら、たとえ大学に入ってから考えが変わっても、きちんと軌道修正できると思います。

^{*}三田祭のための研究発表論文の略。

Q.03 | 興味分野と経済学はどう結びつくの？

経済学を学ぶだけでなく、経済学を通して社会問題を理解したい。

経済学部は人気の学部であり「慶應の顔」でもあるという意識はありましたが、経済学って何か、仕事に活かせるのか、全くわかっていませんでした。ただ、社会問題に興味があったので、経済学を通して、それを理解できればと思い、経済学部を選びました。入学前にもっと数学の勉強をしておけば良かったかな、とも思いますが、経済学部には数学が苦手でも進むことができる選択肢があるので、その点では安心しています。経済学は、あらゆる社会とつながる学問ですから、経済学を通していろいろな興味分野を理解することができる学問だと思います。



経済学部3年 張 然

私の答え
課外活動は絶対にオススメ！
将来、何をしたいかを、じっくり考えて。

社会問題の中でも政治に関する視野を広げるために、2年生の時に議員インターンとして、議員事務所で秘書の仕事を経験しました。政治の世界を垣間みることができたのはもちろんですが、さまざまな人との出会いや経験も、自分にとって大変プラスになったと思います。さらに、インカレ団体の日中学生会議にも参加しました。2年生の時に25名程度で、2週間中国に滞在し、中国の学生との交流を深め、翌年には来日した中国学生を案内するなど、有意義な活動ができました。他にも、子供のためのボランティア活動に参加するなど、積極的に課外活動を行っています。これは、みなさんにもぜひオススメしたいことですね。

学部選びで悩んでいるみなさんに伝えたいのは、「将来性」ではなく、「好きなこと」は何かを考えてほしい、ということです。将来性ではなく、自分が実際に将来何をしたいかということを考えれば、自ずと進むべき道が決まるのではないのでしょうか。



Q.04 | 本当に「好き」だけで学部を選んでいいの？

好きな政治経済の授業の延長で経済を。少しは他の選択肢も考えればよかった!?

高校で受けた政治経済の授業が面白かったので、大学では経済学部に入ろうと、早くから決めていましたので、学部選択に悩んだということは、特にありません。ただ、受験のリスクを考えると、文学部や法学部など、他の選択肢も検討しておけば良かったと思いますが、経済学部の授業を受けてみると、必修と選択の授業バランスが良く、好きな科目をたっぷり学べるので、やはり経済学部を選んで良かったと思っています。嫌いな科目をこなさなければいけない高校の授業とは違い、好きな科目を学べる大学の授業の楽しさを実感しているところです。



経済学部2年 熊谷 暁彦

僕の答え
まずは、いろいろな分野にチャレンジしよう。
将来のことは、のんびり考えよう。

授業に関しては、積極的に受けたい授業が多いと感じています。「単位取得が簡単だから」という理由で授業を選ぶ人もいますが、僕は単位取得が大変でもやりがいのある勉強をするのが好きですね。特に少人数で行う英語の授業(P22~P24参照)は、文法などではなく、プレゼンテーションが中心なので、とても楽しくやりがいを感じています。来年には留学も考えています。

サークルでは「塾生新聞会」に所属し、2年生になってからは役職に就きました。広告営業や社会人へのインタビューなど、大変な作業もありますが、新鮮でいろいろな刺激に触れることができるので、とても楽しいです。

まだ2年生なので、いろいろな分野にチャレンジしながら、のんびり時間をかけて将来のことを決めていこうかな、と考えています。大学に入って、いろいろな人と出会い、経験を積むことで、自分が考えている以上に環境が変わり、価値観が変わっていきます。とにかく広い視野で考えて、いろいろな選択肢の中から学部を決めていったら良いと思います。

Q.05 | スポーツとの両立は？

慶應の花形、スポーツも盛んな印象。サッカー部の自分にぴったりだと思った。

経済学が、卒業後の就職などでどう活かせるのかわかりませんでしたが、経済学部は、慶應の花形というイメージで、各界に有名な出身者がいるという良いイメージだけではありません。(笑)正直なところ、スポーツをしている人も多く活発なイメージもあったので、サッカーをしている自分にはぴったりだな、というくらいの印象でした。体育会のサッカー部に入ろうと思っていたので、授業との両立がきちんとできるか心配でした。経済学自体への興味より、いかに自分らしく学生生活を過ごすことができるか、といったことで頭がいっぱいでしたね。



経済学部3年 谷口 孝太郎

僕の答え
入学してから経済学の面白さを発見！
悩んだら、広い可能性を持つ経済学を。

入学してからは、授業とサッカーの練習時間が重なることもしばしば。練習を優先しなければいけないので、授業内容を理解するのが大変です。でも、そんな時間がない中でも練習と授業をしっかりと両立できた時、最高の充実感を得ることが出来ました。課外活動では、小学生向けのサッカースクールで指導をしています。地域住民の方との交流や、運営に携わることで、広い視野を養うことができました。

経済学に特別な思い入れはなかったんですが、寄付講座で日本の経済界をリードする方々のお話を聞くことができたのはラッキーでした。これは、経済学部ならではのメリットだと感じています。金融や国際取引の話など、他では聞けない経済の深いお話を聞くことで、経済学の面白さを知りました。

大学は、いろいろなことにチャレンジできる良い時期です。最初から何をするか決めるのが難しいと感じたら、入学後にも可能性を広げられるような学部を選択すれば良いと思います。



Q.06 | 経済学って何？就職に役立つの？

経済学ってイメージしづらかった。でも、「数字を使って世界を見たい」。

入学前は、はっきり言って経済学っていうのはイメージしづらい分野でした。経済学を選んだ理由は、数学が得意だったので、後々ラクかな、と思ったからです。それにどんな方向にも進めそうだったので、ただ、「数字を使って世界を見てみたい」という思いは漠然としながらも、ありましたね。今、高校生の家庭教師をしているんですが、学部選びのアドバイスなど自分の経験を伝えられるのが嬉しいです。その高校生にも良く言うんですが、もっといろいろな本を読んでおけばよかったと思います。経済学を学ぶ上で、「想像力」や「発想力」は重要ですから。



経済学部4年 徳永康彦

僕の答え
経済学って、思っている以上に面白い！
想像力と発想力が身につく経済学を。

慶應の経済学部には本当にいろいろな人がいます。ベンチャー企業を起し10名の社員を束ねている人や、ボランティアに明け暮れる人、全く勉強しないのにすごく成績の良い人…。そんな刺激的な人々に囲まれて、経済学を学んでいるうちに、日本だけではなくグローバルな視点で経済活動全体に興味を湧き、国際センターの短期留学制度を使って、オーストラリアに留学しました。より広い視野で日本や世界の経済を学び、経済学の重要性を実感し「経済学って、思っている以上に面白い!」と気付きました。

就職に関しては、「慶應の経済」というと各方面で活躍されている先輩が多く、信頼されている感じを受けました。経済学部の生徒は金融や経営コンサルティング会社に求められています。最終的には「人柄」が大切だと思います。就職活動をしていて実感したのですが、どんなに学問に精通している人よりも、想像力や発想力のある人材が選ばれるのです。慶應の経済なら、その想像力や発想力を伸ばすことができると思います。数学が得意な人はぜひ経済学部を受験すると良いですよ。

ゼミで活躍する学生たち

高校生の皆さんへ ～大学生活におけるゼミナール履修～

高校生活最後の夏を迎え、如何お過ごしでしょうか。皆さんは大学生活に何かしらの目標を持ち、これからの受験に臨むと思います。学内での勉強は勿論、体育会、サークル、資格の為の勉強、アルバイト等、大学生活を充実させる為の手段は人それぞれですが、ここでは大学生活におけるゼミナール履修の意義について説明します。

皆さんの中にも「ゼミ」という言葉を耳にしたことがある人も多いのではないでしょうか。経済学部では、一、二年は日吉で基礎的な分野を学び、三、四年になると三田へと校舎を移し、専門的な分野を学ぶという形式をとっています。その三、四年で専門的な分野を学ぶ上での一つの選択肢がゼミです。一般的な授業と違い、ゼミでは少人数で教授との対話が行われていく中で深く学問を学ぶことが出来ます。各ゼミによって詳細は異なりますが、主に本ゼミ、サブゼミ、パートゼミ、インゼミという様々な形態の授業から、論理的な思考能力や、発想を転換する能力を養っていきます。一つのテーマを深く掘り下げることで、考え方に一本の軸を持ち、テーマに対してゼミの仲間や教授と意見を交わ

す中で、コミュニケーション能力を培っていくことが出来ます。また、ゼミの運営、合宿、ソフトボール大会、三田祭論文等多くの時間をゼミの仲間と共有することにより、机上では学べない様々な勉強が出来ることもゼミの大きな特徴です。

経済学部の特徴として他学部 비해将来の選択肢の幅が広いということが挙げられると思いますが、ゼミにおいても同じことが言えます。現在経済学部には約70のゼミが存在し、一人一人個性があるように、同じ分野を学ぶゼミでもそれぞれ違ったカラーがあるものです。その中で、より自分に合ったゼミを探すことが、将来何をすべきかの目標を見定めるターニングポイントになる人も多いことでしょう。

人と人との絆の強さは、どれだけの山を共に乗り越えたかで決まると思います。私は高校時代野球部に所属していたのですが、数々の辛い場面を共に乗り越えてきた仲間達との絆は強く、そう簡単に崩れるものではありません。同様に、ゼミという組織においても、共通のゴールを設定しそれを達成するというプロセスの中で、強い絆を結ぶことが出来るでしょう。

これまでゼミについて簡単に説明させて頂きましたが、どういったものか、少しでもイメージ出来たでしょうか。今を生きると良く言いますが、今を充実させることは、次のステップを充実させることに繋がっていきます。まだ先の話かもしれませんが、三田における大学生活を充実させる為に、今、少しでもゼミというシステムを知って頂ければと思っています。

「自我作古」の精神の下、様々なことに挑戦し、有意義な学生生活を送って下さい。



経済学部ゼミナール委員会 委員長
経済学部3年 山岸 諒平

インターゼミ 「ISFJ」 (Inter-university Seminar for the Future of Japan)



大学の枠を越え、それぞれの研究目的ごとに組織される学生団体が運営するシンクタンクをインターゼミと呼び、その中のひとつに ISFJ (日本政策学生会議) があります。現在10大学13研究会の学生が運営活動を行い、毎年「政策提言会議 (政策フォーラム)」を開催しています。2004年度には、19大学52研究会の学生が研究発表を行い、400名以上の学生が参加しました。毎年12月に行われる政策フォーラムは、学生団体が運営するものとしては、

国内有数の規模を誇っています。政策研究を行う学生自身の可能性を広げ、研究成果を政策提言として社会へ広くアウトプットすることで、政策立案環境の向上に寄与することを理念として活動する ISFJ。学生、国会議員、官僚、民間シンクタンク、大学教授などが、それぞれの枠組みを越え、活発な意見交換が行われる場となり、学生たちが政策立案者と研究者の連携媒体となることを目指しています。

日吉の森



「日吉キャンパスにようこそ」…みなさんが経済学部に入學すると最初に耳にするのがきっとこの挨拶です。そう、最初の二年間、みなさんは日吉キャンパスで勉強することになるのです。そこで少し日吉キャンパスについてご紹介したいと思います。

日吉キャンパスにはふたつの大きな「森」があります。ひとつは二十ヘクタールにも及ぶ広大な雑木林です。都市部としてはたいへんに恵まれた自然環境であること、そして、先生や学生たちが森の保全活動に携わっていることも日吉キャンパスの自慢です。

そして、日吉キャンパスにあるもう一つ森とは、人類が長い時間をかけて築きあげてきた「知」の森にほかなりません。そう、それはさながら宇宙と呼んでもよいような無限の広がりを持つ世界でもあります。もちろんそこにはやがて本格的に経済学を勉強するために必要な樹木 (基礎教育科目や専門基礎科目) も生えています。しかし、そればかりではありません。世界のいろいろな人びととコミュニケーションを交わし、多様な文化を理解するために必要な言語 (英語・第二外国語) の木々もあります。さらには経済学にとどまらずこれからみなさんが人生を有意義に過ごすために不可欠な知的な基礎体力を作るための「知」を伝える多種多様な樹木群 (総合教育科目) もみなさんを待ち受けています。しかも、それらの大半は、学部の垣根を越えて誰もが樹果を享受できるのです。

この「知」の森は、みなさんがいくら歩き回っても飽きることはないと思います。それほどにこの「知」の森は幅広く、また奥深いものなのです。しかも、学部にとどまらず、日吉キャンパスにはこの森をよりよく歩くためのさまざまなガイドも用意されています。教養研究センター、外国語教育研究センター、体育研究所、スポーツ医学研究センターといった研究機関がいろいろな勉強の機会や情報を提供しています。

「日吉の森へようこそ」…みなさんと一緒にぜひとも日吉の森を歩ける日を楽しみにしています。



経済学部 日吉主任 羽田 功

英語 カリキュラム

「英語で」学ぶ

「英語を」ではなく

コンテンツ(題材)中心のカリキュラム

経済学部英語カリキュラムの最大の特徴はライティング・スピーキング・リーディング・リスニングの四技能を統合して設定されたテーマについて英語で学ぶ「英語セミナー」を主要な科目として設置している点です。テーマの異なる「英語セミナー」にいくつか参加することによって複眼的な思考を身に付けることが可能です。

和訳・英訳に頼らずに、英語を理解し使いこなす授業

大学生が新しい知識を身につけ他の人と知識を共有する際に必要とされる英語スキルの習得を目標としています。具体的には、原則として日本語を介在させず英語を英語として理解し、情報を発信・共有する活動に重きを置いています。

授業内プロジェクト：論理・情報処理・発信スキルの強化

多くの英語クラスでは、学生がテーマに沿ったトピックを選んで個別に調査を行い結果をプレゼンテーション・レポートで発表します。このようなプロジェクトを通して問題設定・議論の組み立て・情報の取得と整理・そして成果の発表という単なる「英語習得」を越えた「学習スキル」の訓練を行っています。そのために1クラス20～30名の少人数制です。

大学教員だからこそできる英語クラス

経済学部英語カリキュラムには以下のような優れた点があります。

- ① 実践的なアカデミックイングリッシュ体験の場の提供
(学問を修めるための英語スキル・論理構成力の訓練)
- ② 単なる英語スキルの習得を超えた教養教育の実現
- ③ 幅広い分野で研究者として活躍する教員の専門知識の活用
(メディア学・歴史学・言語学・社会学・文学・地域研究など)

HPで詳しい情報をチェック! <http://www.hc.keio.ac.jp/econeng/>

英語 Study Skills

必修科目・共通クラス

大学の勉強に必要なアカデミックイングリッシュの3つの基本的技能を集中的に訓練します。授業は、基本的に英語で行われます。

Writing

自分の考えを論理的に提示する英文パラグラフの書き方を習得しそれを発展させて短いレポートにまとめる方法を学ぶ。

Reading

主題や論理構成を的確に把握するつまり「必要な情報を得るためのリーディング」を習得。読んだ文章の要点や概要を、パラフレーズ(言い換え)の技術を使って自分の英語表現でまとめる。

Presentation

英語のプレゼンテーションの基礎訓練:効果的な話し方やジェスチャー論理的な構成・視覚にアピールする資料の作成と利用。



ここがポイント!

英語スキルの統一された基礎訓練により次のステップ:「セミナー」「リーディング」ではテーマ中心の学習が可能。

英語セミナー 英語リーディング

選択必修科目

英語セミナー

ひとつのテーマについて英語で文献を読み、発表し、レポートを作成。Study Skillsで学んだスキルを伸ばしながら「論理的な思考方法」「明確で説得力のあるプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッション、ディベート技術」「英語論文作成の基本」を身につけます。3つのレベルがあり、自分のペースでレベルアップが可能です。

- 中級: Study Skillsで学んだ技術を確認・発展させる。
- 上級: 中級よりも教材やディスカッションの分量がアップ。
- 特別上級: 英語圏の大学の概論クラスレベル。教科書も海外で出版されたものが多く使われます。

トピック例: 「家族の社会学」「日本社会の民族的少数者」「非営利団体の戦略」「映画と社会」「言語学入門」「環境と開発」

英語リーディング

リーディング技能に、ライティングやディスカッション、プレゼンテーションを補助的に組み合わせた構成です。



英語 (study skills)

外国語科目 | 外国語 I [英語セミナー]

少人数クラスで「論理の力」を身につける。

[英語セミナー]は「(語学学校ではなく)大学で英語を勉強することの意味は何か」という問いへの一つの答えであると考えています。

海外の学問やビジネスの場では「ネイティブと変わらない発音」よりも「論理的・独創的なデータ分析」「自分と違った考えを持つ相手と話し合い、情報を共有する能力」そして「専門分野にとらわれない教養」が重視されます。また、情報は刻一刻と新しいものに更新されていきますので、英語を読むときでも書くときでも、いったん日本語にしてから処理するようなペースでは、常に新しい情報が求められる分野ではとても間に合いません。

私の専門分野は理論言語学ですが「データを収集・分析して個人差を超えたパターンを見出す」「明確で説得力のある論を立てる」など、研究者としての教員のスキルを生かした指導が可能で新しい知識をまとめた形で提供できる「英語セミナー」は日本の大学の英語クラスのひとつの理想の形だと思います。少人数制で個人指導の機会が多いことも学生に好評です。

クラスの構成は担当教員にまかされています。私の中級・上級のセミナーの前半では「日本の外資系企業」「アメリカの大学運営」など、全体テーマに関連する教材を読み、ディスカッションを行います。後半では学生が自分で選んだ企業や大学についての調査結果を個人・グループの2つの形態で発表し、レポートを作成します。発表の際の質疑応答の指導にも力を入れています。クラスでは主に英語を使用し、日本語で補足説明をする場合もありますが、いわゆる和訳・英訳は一切ありません。

特別上級クラスの学生は日常生活で英語を使えるレベルに達していますので、英語圏の大学の概論クラスと同じように、大学での学問に必要な英語スキル・分析スキルを身につけ、同時に学問的な視野を広げることを重視しています。言語関係のクラスでは最新の研究成果の紹介を講義に盛り込むこともあります。



教授
松岡和美

[第2外国語の理念]

複数言語を使いこなしてこそ、リーダー。

経済学部では、英語以外の外国語を「外国語II」と呼び、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語の中から最低1言語を学ぶことになっています。経済学部の学生には、将来の日本の先導者として共通語としての英語は当然のこと、世界の個別社会により深くコミットするために、複数言語を使いこなしてもらいたいと考えています。それはまた、社会のリーダーにとっては必要不可欠なことだと思います。

さて、外国語IIの最大の特徴は、1年次に週3コマの授業を行うことでしょう。この点では、いわばセミ・インテンシヴコースの形を取っているわけです。しかも、その内2コマは専任の教員が責任をもって教える原則になっています。言葉の学習では初歩が肝心。だから最初がっしりと基礎を固めてしまおうというコンセプトです。2年次には必修科目としては週1コマになりますが、むしろそれ以上取ることも大歓迎です。さらに三田に進学しても、続けて勉強できる仕組みになっています。必修部分こそ計4コマと控えめですが、学ぶ意欲を持つ学生は卒業までしっかりとケアするシステムができています。

外国語II 履修チャート

日吉キャンパス				三田キャンパス	単 卒 業 必 要
1年		2年		3年・4年	
春学期	秋学期	春学期	秋学期		
ドイツ語・フランス語 中国語・スペイン語 から1種選択 (留学生は日本語を選択)		1年で履修した外国語 1コマ2単位必修 それ以上の履修もOK!		3・4年での継続学習に 対応したクラスを用意。 中級から上級を目指そう!	8
週3コマ6単位必修					



教授 境 一三

さらに卒業単位にカウントされる選択外国語(A)も開講しています。



外国語科目 | 外国語Ⅱ [ドイツ語]

自前の言葉で哲学してきた社会を学ぶ。

私の担当はドイツ語ですが、教師として大きな目標を持っています。それは、日常的な場面でドイツ語が使えるだけでなく、学問的な議論も生き生きとしたドイツ語でできる学生を育てることです。そのために初歩の授業では生活語彙を基礎とした口頭表現の練習に重きを置いています。「なぜ学問を目指すのに会話の練習?」と思うかも知れません。それは「言葉のリズムやメロディーに体が共鳴することなしに学問はない」という確信が私にあるからです。文学ばかりでなく、学術的な論文にも、思考する身体の躍動感や息づかいが込められています。それを自分の五感で感じ取ることが必要だと思うのです。ましてやドイツ語は、ラテン語やギリシャ語からの借用語に頼り切らず、自前の言葉で哲学してきた歴史を持つ言語です。例えばヘーゲルは、aufheben「持ち上げる」という実感あふれる生活語を、そのまま自分の思想表現に使いました(因みに日本では、「止揚する」というずっと難解な言葉で訳されています)。

感情を込めてTor, Tor, Tor!(ゴール、ゴール、ゴール!)と発音練習することが、ベートーベンやシューベルトを聴くことだけでなく、ニーチェやマルクスを読むことにつながるとしたら、なんだかドイツ語は楽しそうだと思えてきませんか?



教授
境 一三



外国語科目 | 外国語Ⅱ [フランス語]

感性と論理性、二つを兼ね備えた言語。

流れるように美しい、情感あふれる音の響き、そしてそれを構成する完璧なフォルム……。それが、フランス語の詩にはじめてふれたときの印象でした。フランス語がいかにも思考力を深め想像世界を広げてくれる言語なのかを、学習者自らが感じ取って欲しいと考えます。「フランス語の発音は難しい」と敬遠するのではなく、まずは積極的に「聞く」ことで音感に慣れ、そこから読む、書く、話すという能力を高めていくのが効果的です。そして大事なことは、目標をもつこと。機械的に文法の知識をつめこむのではなく、フランス語を用いて何をしたいのか、明確な夢を描くことです。経済学を専門とする人なら、アダム・スミスやマルサスから一歩ふみだして、フランスの経済学者の原作を読んでもらうのもよいと思います。むしろ経済という枠にとどまらず、フランスの思想・哲学書や文芸作品を原語で読むことは、論理的な思考法を養うだけでなく、感性を磨き人間としての幅を広げてくれるでしょう。ちなみにフランスの大学生は、専門が経済であれ法律であれ、広義における「人間学」である限り、思想や哲学の知識が当然のごとく求められます。もちろんフランスだけではなくこれからの日本においても、国際化社会に貢献し、諸外国との交渉を担ってゆくべき若い世代の人には、こうした<教養>が大いに必要とされるのは言うまでもありません。

みなさん、何事にも情熱をもって取り組み、有意義な大学生生活を過ごしてください。そして世界に誇れる日本の礎となってくださいを願います。



専任講師
林田 愛



外国語科目 | 外国語Ⅱ [中国語]

例えば餃子。日本では「個」中国では「重さ」。これが文化の違い。

みなさんご存知のように、日本と中国は、古くから歴史的文化的に密接な関係を築いてきました。ですから中国語は、漢字を使っているし、親しみやすいと思われるかもしれませんが、言語もそしてその背景にある文化についても、実は異なる点がたくさんあります。例えば餃子は、日本でもポピュラーな中華料理ですが、中国では、私達が好きな皮がサクサク、カリカリした焼き餃子ではなく、主にお湯でゆでた水餃子を食べます。また中国へ行ったら、地元で評判の餃子屋さんで、中国語で注文してみましょう。「我想吃饺子（餃子を食べたいのですが）」というとき「你要几两？（何グラム要りますか）」（1两 = 50g。この場合使う小麦粉の量を尋ねている）と聞かれるでしょう。私達が日本のお店で注文する餃子は、「一人前」あるいは「一皿」であり、その一人前には「何個」の餃子があるかだいたい予測することができます。しかし自分達がふだん「何グラム」の餃子を食べているのか、みなさんはすぐにわかるでしょうか。「見た目に個数で数えられるものを、わざわざ重さでとらえるなんて」と私自身、中国で戸惑った経験があります。焼き餃子であれ、水餃子であれ、餃子は餃子。しかし餃子を「個数」で数えるのは、日本人の見方であり、餃子を「重さ」で計るのは中国人の見方なのです。世界に存在するさまざまな事物をどのように分類し、カテゴリー化するのか、これは人間が言語を用いて、恣意的に行うことです。ですから、こうした違いこそ、まさに文化の違いに根ざしたものだといえることができるでしょう。語学の授業と聞くと、発音、文法を学ぶことの繰り返し、と思われるかもしれませんが。そうした基礎的な練習ももちろん重要ですが、私はみなさんに、上の例で見たように、中国語を学ぶことを通して見えてくる、中国の人々の物事の捉え方、認識のあり方にも興味を持ってもらいたいと考えています。さらにこうした違いを学ぶことを通して、中国語や中国文化を理解するだけでなく、日本語や日本文化を客観的に見る眼も養ってもらいたいと思っています。



准教授
溝部良恵



外国語科目 | 外国語Ⅱ [スペイン語]

スペイン語を話す人びとの世界を旅する。

スペイン語の単語……と尋かれて連想されやすいのは「友」を意味する「アミーゴamigo」でしょうか。この単語はスペイン語が話されている世界の<イメージ>に近いものかもしれませんが、しかし心から信頼しあえる「友」となるためには、歳月をかけ信頼という財産をつくるのが当然ながら重要でしょうし、言語の選択とは必ずしも関係がなさそうです。ではなぜ「友」を意味するスペイン語の単語が有名になってしまったのでしょうか。見ず知らずの人間同士が声をかけ合い、話し始めるきっかけとなりうる表現が、スペイン語には比較的多いということなのかもしれません。列をつかって何かを待っている場面など、さまざまな公共の場で知らぬ者同士が近距離におかれたままになる時、スペイン語世界では会話というものがしばしばそこで始まります。もちろん自分が脅威でないことを相手に伝えるという側面もあるでしょうが、それにしても赤の他人同士が話し始める時、おたがい心理的ストレスは小さくないものです。ところが話し始めるのに必要な表現があらかじめ多数共有されている言語環境ならば、その重荷は軽減されるはずです。

外国語を学ぶとは人間関係の別の形を学ぶことでもあるという自明の結論ですが、スペイン語を学習することがスペイン語を話す人びとの世界という見知らぬ土地への旅ともなる点をここでは強調しておきましょう。公用語となっているのはまずスペイン、そしてメキシコ・アルゼンチン・ペルー・キューバといったアメリカ大陸・カリブ海諸国、アフリカ大陸の赤道ギニア、計20カ国。さらにアメリカ合衆国のラティノなどを考えれば、中国語・ヒンズー語・英語に次ぐ規模の人びとの母語でもあります。いわば大西洋を中心に広く世界に広がる言語なのです。こうした多数の人びとが、家、学校、職場、街頭、あるいはサッカーの競技場で、たがいに声をかけ合いながら、今日のスペイン語を形成して来ました。その過程で『ドン・キホーテ』や『百年の孤独』などすぐれた文学作品が生まれおち、さらにメロディを与えられるとスペイン語の声は<歌>となって、世界中が踊らざるにはられない「ラテン音楽」となっています。

スペイン語の声自分が向かってくる時、それまで遠く隔たっていた彼ら／彼女らの世界への道のりは少し短く感じられるはずです。



准教授
八嶋由香利



基礎教育科目 | 履修タイプⅡ **[数学]**

数学がないと理論が通らない。だから、文系にも数学は必要。

桜が咲き新学期を迎えると必ず何人かの学生に、数学がやりたくなくて文系にしたのに、なぜ大学に入ってまで数学をやらなければならないのか、と恨めしそうな顔を向けられる。しかし現在の社会科学、特に経済学は数学を言語として理論を記述することが多く、基本的な数学を理解していないと、何をやっているのかさっぱり分からないということになる。もちろんある程度は数学を通さなくても同じ社会現象を記述できることも多いであろう。しかし、数学の未使用により、目的に到達するのにとんでもない遠回りが必要であったり、同じ目的地に達したはずなのに人により微妙なずれが生じたりすることも多い。そこで、気の毒そうな顔をして、経済学を選んだからには必要最低限の数学は避けられないことをいい、でも本格的な数理経済学をやるのであれば、必要とされる数学はそんなに多くなく、少しずつ理解できるからと、説得して、1年間付き合ってもらっている。

森が生きていくためには豊かな水が必要である。数学は自然科学を記述する言語として、その豊穡さを支えてきた。少ない式で、様々な自然現象が理解できるのは信じられないことである。少し努力はあるとしても、記述された内容は誰にでも同じように理解可能である。自然科学を支えた数学が最近では社会科学にもその豊かな水を供給し始めている。数学の水はそれぞれ青々とするだけではなく、それ自身も美しい結晶をつくる。そんな結晶についても時には話ができればと思っている。

経済学部では、数学の得意な人、不得意な人、数学を本格的に使って経済学を理解したい人、必要最低限の数学だけでよいという人、それぞれの人が必要に応じて履修できるように色々な種類の数学の授業が用意されている。これらの授業をうまく利用してもらえればと思っている。

1年の数学 タイプⅠ（数学で受験した学生）微分積分・線形代数が必修。
タイプⅡ（地歴で受験した学生）数学概論（Ⅰ）・（Ⅱ）が選択必修として配当されている。



教授
光 道隆



総合教育科目 | Ⅱ系 人文・社会系 **[音楽]**

オーケストラから現代音楽まで。自分の可能性と出会う。

私が担当している「音楽」を含む、日吉キャンパスで開講されている総合教育科目は、大学のすべての学部の学生に対して行っている授業がほとんどです。そこには、日吉とは地理的に離れている湘南藤沢キャンパスの学生も、人数は多くありませんが積極的に参加してくれています。外国語科目や専門科目の授業では、他学部の学生と交流を持つことはあまりありませんが、総合教育科目の授業ではいろいろな仲間達と一緒に学ぶことができます。このような中で総合教育科目は、幅広く様々なことに触れてもらうために、実に多くの数と種類の授業が、それぞれ特色を持って展開されています。

日吉キャンパスで開講されている総合教育科目の「音楽」の授業は、日吉音楽学研究室が中心になってカリキュラムを組んでいます。それぞれの学生が持つ勉学の方向性または興味に対応するために、導入的な講義から、かなり深い内容を扱う少人数セミナー形式の授業まで多彩なプログラムを提供しています。扱っている題材も、古典的な西洋音楽だけでなく、民俗音楽、現代音楽など様々です。

さらには、他の一般大学にあまり見られないような、実習や実技、演習を含む音楽の授業も開講しています。このような授業には、音楽理論を実践的に学ぶというものから、合唱音楽の歴史を、実際に声を出すことによって習得するというものまであります。私が受け持っている「音楽」の授業の中にもこのようなクラスがあります。「18世紀のオーケストラと演奏習慣」と名付けられた授業です。ここでは、オーケストラ演奏の経験がある学生が30人ほど集まって、普段使用している楽器を用いながら、ハイドンやモーツァルトの交響曲に代表される18世紀のオーケストラ音楽を、現代の慣例的な演奏方法ではなく、当時の演奏習慣を考察し実践的に導入することで、18世紀の音楽を深く理解することを行っています。

みなさんには、ぜひ、「音楽」の授業だけでなく、多数ある総合教育科目を上手に履修して、みなさんが持つあらゆる可能性を探っていただきたいと願っています。



准教授
石井 明



総合教育科目 | II系 人文・社会系 [比較文化論]

他の文化を知ることは、自分の文化を知る第一歩。

この授業の目的は他者に対する興味関心を刺激し、拡張することにあります。外の世界に対する興味関心は、人間を成長させるという教育理念からです。もちろん自己発見は大切ですが、その一方いわゆる「アイデンティティ」という概念そのものが、実は他者との関係において形成されて来たものでもあります。

さて文化の「比較」とは何でしょうか？ 抽象的な説明になりますが、地理的に隔たったものであれ歴史的に前後するものであれ、単に相互の「影響」を論じるのではなく、複数の文化が構成するコミュニケーションのネットワークを思考の対象とすることです。このように、多数の文化によって構成される関係のネットワークの中に、個々の文化がそれぞれ存在するものだという理解から、比較文化論は出発します。そうすると、他の文化を知ることが、その文化との関係において自分の文化を知ることにもつながるはずですが。

では文化とはいったい何でしょうか？ とてつもなく大きな問いですが、私の恩師の定義をここでは引いておきましょう。社会にはたくさんのパラドクスがありますが、それらを解決するためのひとつのプログラムが文化である——この定義によると、個々の文化の比較は、それぞれが属する社会を比較することにもつながることになります。

しかしながら、比較文化論の実際の授業はこのような抽象的な議論とは正反対です。文化というものが発動する例を具体的な事例から検証して行きます。たとえば2005年度まで3年間には、「クラシックとモダン」「『自己』と『他者』」「『外国』『外国人』、『異邦』、『異邦人』、『外国性』『異邦性』」といった共通テーマに基づいて、日本、中国、南北アメリカ、ヨーロッパをカバーして来ました。これらだけで「世界」と呼ぶには無論不十分ですが。

他者を知って自己を知る——当たり前のように、なかなか難しい作業です。1年間を通じて、履修者には大いなる知的冒険をしてもらいたいと願っています。



准教授
石井康史



総合教育科目 | II系 人文・社会系 [表象文化論]

テレビ、新聞、携帯…映像と音響の文化的役割を考える。

現代は、オーディオ・ビジュアルの時代だといえます。朝起きると、テレビをつけてニュースや天気予報の番組を見、活字メディアである新聞を覗き込むと衝撃的な写真が見え、電車に乗ると、吊るし広告だけでなく、液晶画面が見られ、若者は漫画本や携帯画面に興じています。街を歩いてみると、建物の正面の上部から歌手の大画面が映し出され、路地や線路沿いには落書きでいっぱいです。これら飽和状態の映像と音響は何を表象しているのでしょうか？じっくりと反省してその意味を考えたいと思います。映像と音響の文化的な役割は果てしなく大きいといわざるを得ません。

「表象文化論」は、言葉や映像や音楽によって表現された文化を体験し、その意味を考え、そして自らが表現者になるきっかけをつかむ授業です。オムニバス形式の授業で、4名の担当者が、映画、写真、漫画、言文一致、ポップアートなどを論じます。この授業では、たくさん映画を鑑賞し、それらを映画史に位置づけ、その意味を問います。言葉に文法があるように、映画にも「映像の文法」があります。映画の見方も、製作する立場から、例えば、カメラワーク、構図、色彩、衣装、音楽などに注目してみると、今まで気づかなかったことが認識されます。大写しのクローズアップショットはどんな効果があるのでしょうか？下から仰ぐようにして撮った映像は、どんな意図があるのでしょうか？

また、写真を撮り、撮られるという体験は日常化していますが、写真は私たちの世界の捉え方に多大な影響を与えています。今回は、写真の誕生、映画の誕生をテーマにして、「写真とは何か」「映画とは何か」を考えながら、映像芸術の原点に迫ります。映画としては、短編映画（ショート・フィルム）を通して、映像表現とその可能性、さらにその現在と未来を見てゆくことにより、表象文化としての映像芸術の在り方を考察します。最後に、メディアとしての文学・絵画・音楽・写真・映画を、ギリシア悲劇からロマン派の絵画、さらには印象派の音楽、世紀末のオペラ、20世紀の演劇や映画を通して、透視します。



教授
小瀬昭夫



総合教育科目 | I系 自然・数理系 **[生物学]**

知識が体験になる。そこには大きな感動があるはず。

自然現象の成り立ちや法則性を明らかにしようとする学問を自然科学と呼びます。現代社会は自然科学の成果を応用する形で発展を続けてきました。今や新聞の経済面や社会面には自然科学の用語が溢れており、文系だからという理由で避けて通ることは出来ません。21世紀の社会を担っていく文系の学生にとっても自然科学を学ぶ必要性はますます高くなっていくことでしょう。

日吉キャンパスでは、様々な自然科学系科目が開講されていますが、化学・物理学・生物学の3科目は、講義に実験が併設されているという点で、他の科目とは異なる特徴を持っています。実験を行うことの意義は、自然現象を自らの目で確かめることにあります。講義などで学んだ「知識」が実験を通して「体験」となることに多くの学生が感動する様子は、実験の必要性を改めて認識させられます。

日吉で開講されている実験科目は30年以上の歴史があり、文系学生のために様々な工夫された講義や実験が用意されています。例えば、私の担当する生物学では、遺伝子から生命の仕組みを調べる分子生物学から自然環境と生物との関係を明らかにする生態学まで、幅広い分野の生物学が開講されており、自分の興味に合わせて履修科目を選ぶことが可能です。実験設備も充実しており、学生1人1人に2種類の光学顕微鏡が1台ずつ用意されています。また、遠心分離器や電気泳動機材など生化学の実験を行う機器も揃っており、DNA抽出実験や遺伝子複製実験など最新の分子生物学を学ぶ実験も実施されています。文系学部でこれほど充実した実験を行うことの出来る大学は日本にはほとんどないと言えるでしょう。別の言い方をすれば、たいへん贅沢な授業かも知れません。理系アレルギーがある学生にも是非履修して欲しい科目です。



准教授
福山欣司



総合教育科目 | 自由研究セミナー **[地理学]**

ネットの情報に頼らない、現地での情報収集にこだわる。

「自由研究セミナー」は、講義形式の授業では実現しにくい学生と教員の双方向コミュニケーションの貴重な場です。自然地理学を専門とする私は、講義科目の「地理学」を担当する一方で、「地球環境と人間」というテーマで「自由研究セミナー」を開講しています。この授業の特色は、専門課程に進む前の学生が、自分たちの関心のあるテーマについての調査や発表・討論を通じて、自由に学ぶことができる点にあります。

私のセミナーの中心は、学生が現段階でできる範囲で、個人でテーマを決めて夏休みを利用して調査を行い、秋学期にその成果を発表すること、およびその内容について全員でディスカッションを行うことにあります。調査を行うにあたって私が学生に課しているのは、「必ず“現地”に出かけること」です。インターネット上でかなりの情報が得られる今日であるがゆえに、あえてこのことを重要視しています。春学期は、発表に慣れる意味で、『地球環境学』や『文明と環境』などの図書を題材にして、学生による文献紹介を行っています。

下の表は、今まで学生が行った発表のタイトルの一部を示したのですが、そのテーマは実に多岐にわたっています。教員の側がテーマを絞らず、あえて学生主体でテーマを選定してもらった結果、荒削りながらも、それぞれの学生の個性が生きた内容になっていると思います。また発表者以外の学生にとっても、仲間の発表を聞くことで、調査や発表の内容・方法について学ぶ点が多いようです。したがって、質疑応答も活発に行われ、授業全体が活性化していくのがわかります。発表の内容はレポートとして提出してもらいますが、最後には全員のレポート内容をまとめた冊子を作成して学生に渡すことにしています。

こうした各自2回ずつの発表以外に、身近な環境を知るという観点から、日吉キャンパスの地形をテーマにして地形図・空中写真判読および野外観察の実習も行っています。

「自由研究セミナー」での経験が、学生の皆さんの今後の大学・社会生活に生かされることを強く望んでいます。

発表
テ
ー
マ

- ① 身近なごみ処理について ② エネルギー問題について ③ バイオマスエネルギー
- ④ 環境ビジネス ⑤ 環境 ISO - ISO14000 シリーズについて
- ⑥ 川越市の環境政策について ⑦ 先端自動車安全デバイス
- ⑧ 鉄道の安全対策 ⑨ トンネルの仕組みと発展性
- ⑩ 北海道地域のガソリン価格についての考察 - 都市間で価格差が生じる要因 -
- ⑪ 本州最南端 和歌山県串本町をみつめる
- ⑫ 自動車道・鉄道の建設と地域発展との関係の検証 - 三重県上野市を例にして -
- ⑬ 日本における震災への対応について - 現状とその課題 - ⑭ 中国 (内モンゴル) 旅行記



教授
松原彰子



専門基礎教育科目 | 基礎科目 **「マクロ経済学初級」**

“経済学って何”。1学年で初めて出会う経済学の世界。

私が担当している「マクロ経済学初級」は、経済学部に入学者が最初に受講する『経済学』に関する専門科目です。そのため、経済学部で、4年間に、経済理論・経済史・経済政策などのどの経済学の専門分野を選択して学ぶことになるとしても必要な、『経済学全般』に関するテーマを、春学期の最初の3分の2では取り上げています。具体的には、まず“経済学とは何か”ということに関して、社会科学である『経済学』の科学的性格、経済学とイデオロギーの関係、経済理論モデルとは何か、経済学の部門にはどのようなものがあるかを学びます。次に、“経済の基本問題とは何か”というテーマで、稀少性に基づいて経済学の定義をして、基本的な経済問題の核心は何かを取り上げます。さらに、“混合資本主義体制の機能はどのようなものか”という観点から、混合経済体制が、いかにして、基本的な経済問題を解決するかを考えます。最後に、“経済循環構造と財政・貨幣・銀行の仕組みは何か”ということに関して、民間部門と公共部門の経済活動の関連性に焦点をあてて、経済循環構造を学びます。春学期の残りの3分の1では、経済理論の中で、一国経済全体の経済システムの動きを分析する『マクロ経済学』の導入的なテーマを取り上げています。具体的には、まず“国民所得の諸概念”というテーマで、マクロ経済学が扱う集計的経済変数でもっとも中心的な役割を持っている国民所得に関する様々な概念の説明を行ないます。次に、“財市場における国民所得水準の決定と管理”について、経済理論モデルを用いて、国民所得水準決定のメカニズムをあきらかにします。



教授
瀬古美喜



三田
の山



経済学の三つの柱

経済学の内容は、つぎの三つに大別されます。

● 経済理論

経済現象を観察し、その間に存在する法則を明らかにします。現実がどうであるかを明らかにする実証的あるいは事実解明的な分析と、現実はどうあるべきかという規範的な分析に分けられます。また、企業や消費者といった個別の意思決定主体の行動の分析に基づくミクロ経済学と経済成長や失業率といった社会全体についての動きを捉えるマクロ経済学にも分けられます。

● 経済史

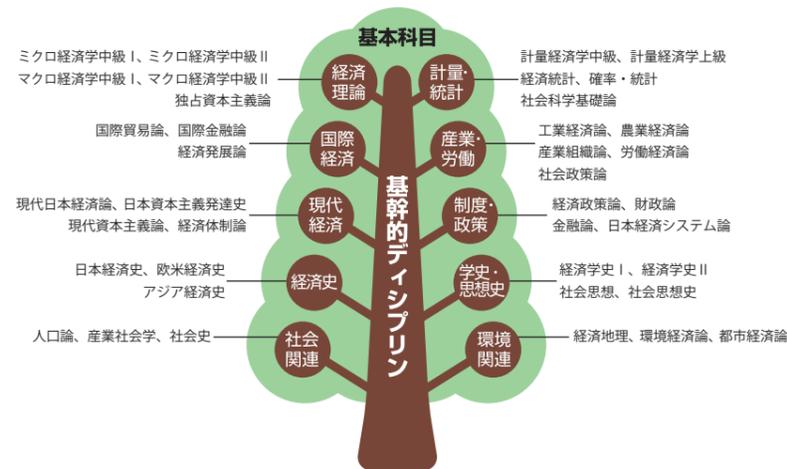
経済現象の発達または変化を時間的順序において個別的・具体的に記述します。日本経済史や欧米経済史といったように、対象となる地域によっても分けられますし、中世史、近現代史といったように対象となる時代によっても分けられます。また、商業史、金融史といったように、経済社会のどの側面を考察するかによっても分けられます。あるいは、数量経済史というように、用いられる分析手法でも分けられます。

● 経済政策

経済理論や経済史によって明らかにされた知識を、現在の私たちが直面するさまざまな課題を解決するための、実際の政策に応用する分野です。対象によって、金融、財政、国際貿易、工業、農業といった領域に分けられます。また、環境問題、人口問題といったそれぞれの課題によっても分けられます。理論的・統計的手法や歴史的考察、法律や制度についての知識も用いられます。

経済理論、経済史、経済政策はそれぞれ独自の研究領域と研究方法をもっていますが、同時にそれらは密接に関係しています。

上の三つの柱に基づいて、三田での専門教育科目には、10の分野からなるカリキュラムの幹にあたる基本科目と、より専門的でカリキュラムの枝にあたる特殊科目があります。



専門科目への取り組み方としての三つの柱（特殊科目）

自分の目標と関に沿って、下の3つから学習の中心となる柱を選択、卒業論文作成、英語エッセイ、研究成果発表を行います。

● 研究会（ゼミナール）

専門教育科目担当の各教員が、それぞれの専門分野について指導する少人数のクラスです。原則として2年間にわたって同じ教員の研究会で学び、卒業論文を作成します。

● PCP（プロフェッショナル・キャリア・プログラム）

卒業後に内外のより専門的な大学院で学びたい人のコースです。基本的に英語による少人数の講義を通して、体系的な専門知識を習得します。用いられる分析手法でも分けられます。

● 研究プロジェクト

経済学部すべての教員が指導する1年間の少人数プロジェクトです。学生が自らテーマを設定する自発展型と教員がテーマを設定する誘導展開型があります。



ミクロ経済学Ⅰ

経済学の三つの柱 経済理論

経済モデルを駆使して、現実経済を分析する。

理論経済学は、複雑な現実経済を分析するために抽象的な理論モデルを構築し、そのモデルの性質を調べることによって、現実経済の動きに対する洞察を得ようとする学問である。つまり、複雑な現実経済を抽象化して捉えたものが理論であり、理論は現実経済を理解するための地図である。理論の理解ができてはじめて、経済現象を「説明」することができるようになる。モデルを構築する際の考え方の違いによって、理論経済学は伝統的にミクロ経済学とマクロ経済学に分類されているが、最近ではどちらの分野でも経済主体（家計、企業、政府などの意思決定主体）の最適化行動に基礎を置いてモデルが作成されるようになり、そのためミクロとマクロの方法論上の差異は縮まってきている。また、ゲーム理論、契約理論といった分析道具も、近年の理論経済学の研究には欠かせなくなってきた。

なお、理論モデルを分析するときには、しばしば数学の論理が使用される。なぜなら、数学を用いると、推論をすばやく、しかも正確に行うことが可能になるからである。例えて言うならば、言葉だけを用いて推論することが徒歩で目的地にたどり着くことに対応し、数学を用いて推論することは電車に乗って目的地にたどり着くことに対応する。つまり、数学を用いることはそれだけ時間を節約することになるが、間違えた電車に乗ってしまえば、目的地とは似ても似つかない別の地点にたどり着いてしまうこともある。そのため、理論経済学を研究するときには数式に惑わされて変な結論を得ないように、数式展開を暗記するだけでなく、その内容を理解することが求められる。しかし、いったん数学的推論に慣れてしまえば、だれの目にもあきらかな形で推論を進めることができるので、これほど便利なものはない。



教授 須田伸一





欧米経済史

経済学の三つの柱 **経済史**

経済や社会のシステムと人間の活動を歴史的に明らかにする。

経済史は、経済や社会のシステムを歴史的に考察し、人間の経済生活の歴史的变化を、マクロとミクロの両方のレベルから解明する学問です。

三田の専門課程では、日本経済史、アジア経済史、欧米経済史の基本科目をはじめとするさまざまな経済史や社会史の関連科目が設置されています。これらの講義を通じて、世界のさまざまな地域や国の経済と社会を歴史的な流れのなかで学ぶことができます。

「日本経済史」は、17世紀の徳川社会の成立前後の時期から1970年代までの約400年間にわたる日本経済の変化をマクロ的に概観します。この講義は、「いつでも、どこでも」を基本にインターネット上で学習することができる慶應義塾ではじめてのe-learningによる授業で、学生は自分のスケジュールにあわせて勉強できます。

「アジア経済史」は、近代の東アジアにおける社会と経済の諸問題を多面的な視点から検討します。具体的には、18世紀以降の巨大な人口に支えられている中国経済を人口と開発などの視点から、さらに中国・日本・東南アジア・南アジアなど近代におけるアジア諸地域間の国際関係を比較史的観点から考察します。

「欧米経済史」では、時間的には中世から現代までの長い期間を、空間的にはイギリス、フランス、ドイツなどの西欧や中欧だけでなく、ロシアを含む東欧をもその対象とします。人口、家族、資源・エネルギー、環境、戦争などといった身近な社会問題とのかかわりを重視しながら、諸国の経済史を比較します。



日本経済史 e-learning 授業風景



准教授
崔在東



環境経済論

経済学の三つの柱 **経済政策**

経済と環境の両立が可能であることを学ぶ。

今日、地球環境が猛烈な速度で悪化しています。地球温暖化、オゾン層破壊、大気汚染、酸性雨、森林減少、砂漠化、廃棄物処理、生物多様性減少、水の枯渇…など深刻な環境問題は枚挙に暇がありません。これら環境問題の多くは、実は、経済問題でもあります。経済活動（生産や消費活動）の過程で投入される自然資源の量が過剰になること、また廃棄される汚染物質が浄化しきれない水準になること、あるいは森林などが開発のために他の用途に転換されることで、直接・間接に環境問題は生じます。「環境経済論」では、経済と環境問題が密接に関連しているという以上の認識に立ち、主として次の点を知ることによって環境への負荷を小さくする仕組みを考えます。

一つは、なぜ経済活動が環境悪化をもたらしてしまうのかという原因と、適切な経済水準を知ることです。これを学ぶことで、どのようにして経済活動をこの適切な水準に維持できるのかを考えることが出来ます。そして、これらは効果的な環境政策を考える上での基礎となります。講義で学ぶ重要な二つ目は、この環境政策についてです。現実の政策で用いられている代表的な手段を概説し、その仕組みを学びます。どのような手段を組み合わせることで、それぞれの環境問題に対して効果的な環境政策を提示することができるのかを理解してもらいます。

このような理解をもとに、経済と環境は相対立するものではなく両立させることが可能であることを学びます。個々の環境問題を知るだけではなく、どのように経済とのかかわりの中で解決していくのかを把握できるようになることを望んでいます。



教授
大沼あゆみ



研究会 [ゼミナール] | 経済理論/契約理論/産業組織論

玉田研究会

現実経済を分析する理論的な視点を「後悔なく」培う

経済学の研究者を目指したのがゼミだった
学生にもそれ以上の感動を実感してほしい

「このゼミに入ったことを後悔しないように。そのためにはゼミにコミットし、目の前の課題を納得がいくまでこなし、ここにある人間関係を最大限に利用することが必要だ。」これは新しいゼミ生に必ず話すことです。自身について振り返ってみると、経済学という学問の面白さを知り研究者を目指そうと決めたのはゼミを通じてでした。ゼミの友人とは今でも顔をあわせると一瞬にして学生時代に戻ることができます。私がゼミで得たものと同等かそれ以上のものを学生が得られる場であることを目標にゼミを運営してきましたが、これまで試行錯誤の連続でした。6期生を迎えたばかりの若いゼミというプレミアムもあって、これまで多くの学生は後悔せずに卒業したと信じていますが、もっと多くのものを与えることができたのではないかというほんの少しの後悔が私の側にあります。試行錯誤はこれからも続きそうです。

現実経済の中にある無数の「研究の種」
豊かな好奇心が分析力につながる

ゼミではミクロ経済学、とくにゲーム理論や産業組織論、契約理論を学んでいます。活動は学生によるプレゼンテーションを中心にリラックスした（騒々しい？）雰囲気の中で行われ、テキストの輪読というインプットから、卒業論文や三田祭論文の報告というアウトプットへと1年を通じて軸足を移していきます。インプットの段階では報告者は理解したことを全員で共有しようとして創意工夫してプレゼンテーションを行います。アウトプットの段階では学生は伝えたいストーリーや自らの詳細な分析を持ち合わせているので、プレゼンテーションはシンプルで迫力がある

ものによって変わっていきます。ゼミではミクロ経済学の正確な理解を目指していますが、それと同時に学生は「ミクロ経済学という視点」から現実経済の中に研究の種を見つけてきます。それは、広告や研究開発、また差別化やCSRなどの企業戦略や人事制度などのインセンティブにかかわる問題など多種多様なもので、豊かな好奇心にはいつも驚かされます。学生は日常の好奇心が分析へと結びついていく面白さを強く感じています。私一人ではすべての好奇心に応えることは簡単ではありません。学生自身が好奇心を分析するための視点を自ら身に付けていくのです。

直感のみに頼らない
経済問題の本質を明確にし、適切な判断力を培う

経済学は現実経済の中から問題意識を見つけなくてはいいけません。でも視点の裏づけがない問題意識は、直感のみに頼った結論や処方箋に帰します。ゼミでの研究を通じて、現実経済と向き合うことになる学生が経済問題の本質を明確にとらえ、適切な判断を行なうための視点を培っていきます。ゼミのHPにこれまで作成してきた卒業論文や三田祭論文を載せています。それは学生が真剣にゼミ活動に取り組んだ（もしくは取り組まなかった？）証拠であり、研究の種が芽吹いた宝箱でもあります。

（「塾」の記事による）



玉田康成 経済学部 准教授

1992年慶應義塾大学経済学部卒業。97年同大学院経済学研究科後期博士課程単位取得。2002年ウィスコンシン大学マジンソン校大学院博士課程を修了し経済学博士号(Ph.D., Economics)取得。2002年より現職。主要著書は『現代ミクロ経済学』（編著、有斐閣）など。専門は契約理論と産業組織論。

経済の「当たり前」を学べるゼミ。 | 経済学部4年 | 藤井大地 |



「仲のいいゼミだね」「楽しそうだね」と友人にゼミの話をするときよく言われます。言われてみて改めてゼミの風景を見てみたら、真面目な内容を皆で話しているのに、笑っていることが非常に多い。それぞれ個性の強い人が集まっているのでそうなるのでしょう。玉田先生はそんな個性の強いゼミ生の特徴を良くつかんでいらっしやうって相談に行く適切なアドバイスをしてくれます。そんな玉田ゼミで学んでいるのは理論経済学です。社会には実は謎が多くあります。市場のシステム、企

業の戦略や組織構造、個人のインセンティブなど普段「当たり前」だと思っていることが実は「当たり前」でなく、巧妙なシステムだったという事が経済学を学んで分かってきました。経済理論を通して「当たり前」を本当に当たり前なのか分析、考察することが出来るようになったことはゼミでの活動のおかげです。個人的な仲間が多いゼミで個性的な「当たり前」を皆で笑いながら経済理論で解き明かす。これが玉田ゼミの醍醐味です。



研究会 [ゼミナール] | 東南アジアの地域研究

倉沢研究会

近くて遠い東南アジアを全身で学ぶ

冷蔵庫もエアコンもない生活で学ぶのは
柔軟性に富んだ考え方と強い団結力

倉沢研究会は、東南アジアの社会、特にそこに住む人々の日常生活の様々な側面を、その内側から眺めることを通じて学ぼうというものである。この研究会は、開発や、それに伴って生じる途上国の社会変容などの問題を、政策論ではなく、現地の住民の側から見直して、人々が本当に求めているものは何なのかを再考しようとするものだ。

そのために、毎年三年の夏休みに、全員でインドネシアへ行って、「カンボン」とよばれる都市の低所得者の居住地域や農村でホームステイする。熱帯の国で、冷蔵庫もエアコンも扇風機もない家に泊まり、お風呂やトイレの形式も、食べ物も、日本とはまったく異なる生活体験は、大きなカルチャー・ショックを学生たちに与えるが、皆たくみにサーバイブしている。

経済危機と各地での暴動やテロの中で、正直なところ、決して治安は良いとはいえなかったが、不思議なことに、これまで誰一人として、病気、けが、盗難などに遭ったことはない。この研修旅行を終えてくると、ゼミ生達は皆一様に大きな変貌を遂げ、見違えるようにたくましくなっている。そして「近くて遠い」といわれる東南アジア諸国に対する関心を強め、異文化に接したときの柔軟性に富んだものの考え方を自然に身につけて帰ってくる。そして何より研究会メンバー間の団結がとて強くなってくる。

実社会でも役立つ共同制作を卒論で

四年生の卒論は、この研修旅行の中で何か問題意識を見つけ出して、トピックを選ぶことにしている。そして、でき

れば卒論のデータ収集のために再度インドネシアへ赴くことを目標としている。本年からは、卒論の共同制作と言う試みを行なっている。つまり、とても一人ではやりきれないような、大掛かりな質問票やインタビューを盛り込んだ調査を、手分けして実施し、ひとつのまとまった論文を仕上げる事を目指している。実際に社会へ出るとこのような協同作業の場は多い。お互いに議論を重ね、不足を補いつつ実施する作業は、協調性を養い、仲間意識も醸造する。

東南アジアで活躍する卒業生たち

これまで、卒業生のほとんどが東南アジアと取引等のある会社などに就職したが、そのなかにはすでに東南アジアで活躍中の者もいる。再度医学部を受験して現在その道に進んだ者もあり、彼は研究会での体験を活かして開発途上国の医療に携わることを一つの目標としている。きついつの日か、社会人になったゼミ生同士が、東南アジアのどこかの町でひょっこり再会して……というのが私の夢である。

（2006年春取材）

倉沢愛子 経済学部 教授

1946年生まれ。東京大学ならびに同大学院で国際関係論を学んだ後、米国コーネル大学に留学、歴史学で博士号取得。フィールド調査、大学での講義、日本大使館勤務などで、インドネシアに計約8年間滞在。1997年から慶應義塾大学で教鞭をとる。著書に『日本軍政下ジャワ農村の社会変容』『二十年目のインドネシア』『女が学者になるとき』『ジャカルタ路地裏フィールドノート』『大東亜戦争を知っていますか』『インドネシア イスラームの覚醒』など多数。



魅力あふれる途上国の「本当の姿」を知るために。 | 経済学部4年 | 佐俣安理 |



倉沢研究会は「現地の人間から見た本当のインドネシア」を知るために、現地での生活体験や調査に大きな重点を置いています。今年四年生は「インドネシア新中間層予備軍の台頭」というテーマで調査するために、ジャカルタ南部の低所得者の居住区へ調査に行く予定です。また三年生はそのジャカルタのほかに、バリ島西部の農村ブンゲラゴアン村でホームステイをします。インドネシアは日本ではバリ、テロ、津波などのイ

メージしかない国です。しかし、実はこの国は、いろいろな魅力にあふれた国です。さらにインドネシアはかつて第二次大戦中三年半の間、日本に占領されたことがあり、日本とは深いつながりを持っています。私達はこの研究会での学習を通して、データのみに頼っていると思ってしまうがちで、物事の「本当の姿」を知るといことを課題にしています。皆さんも是非本当のインドネシアを知ってください。



研究会 [ゼミナール] | 経済史/経済思想史 |

小室研究会

「知的」基礎体力を、教室で、学外で身につける

知的・精神的な伝統は
現代社会に反映されている

小室研究会は、主に江戸時代から明治時代に至る時期の経済史と経済思想史を研究対象としている。この時代は、日本が農業社会から工業社会へと次第に変化した時期であり、私自身は、その変化の仕方の中に現代日本を深く考える多くの鍵があると思っている。とりわけ、日本経済思想史は、人々がどのような思考の枠組みで経済社会を見ていたか、あるいはどのような精神で経済活動に取り組んでいたかを分析するものだが、このような知的・精神的な伝統は、意外と根強く現代人の中にも流れ込んでいるのである。そのようなことを歴史的に調べ考える面白さを、少しでも、学生諸君に伝えたいと考えている。

「骨のある本を読もう」
そう思うことが、大きな成果

それでは、小室研究会は、この専門を研究することのみを目的としているかという、そうではない。私の望みは、第一には学生諸君が、骨のある優れた書物を読み、資料というものに触れ、仲間と議論をし、そのようなことを通して、知的基礎体力をつけることである。また第二には、そのような大学時代の経験が、将来の彼らにとって知的な故郷になってくれればと願っている。将来、このゼミの時代が無性に懐かしく、「そうだ、骨のある本でも読んでみようか」と彼らがふと思う時があれば、目的の大半は達したと言ってもよい。専門の研究は、その意味では、体力を養い、故郷を原体験する手段である。

街を歩き、歴史を考える
すべては深く考える力を身につけるため

また、教室だけが知的基礎体力を養う場ではない。このゼミでは、「学外演習」という機会を設け、街を歩き、そこから歴史を考えることも行う。同じ趣旨から、金沢や京都などで夏合宿を行い、「教師と学生とどちらが先にへばるか」と、ともかく足が棒になるほど暑い街を歩き回る。ちなみに私見では、いつも先にアゴを出すのは学生諸君だと思うが、異論もあるかもしれない。さらに、2年間の間に、少なくとも一度は拙宅に招き、食事をしながら知的な会話を楽しもうと思っているが、ホストの能力もあり、話はいつも九割がたは通俗に堕ちる。しかし俗に通じること社会科学の基本と居直っている。こんな彩りを添えながら、学生諸君が、専門を通して深く考える力をつけることを願っている。



相国寺にて

(2006年春取材)



小室正紀 経済学部 教授

1978年慶應義塾大学経済学専攻科修士課程修了。経済学部助手、助教授を経て1996年より現職。その間、オックスフォード大学、フィレンツェ大学などに在学。経済学博士。1990年より福澤研究センター所員として福澤諭吉研究にも従事。著書に『草莽の経済思想—江戸時代における市場・道・権利—』(御茶の水書房)など。

経済思想史を知る。現代が見える。 | 経済学部 4年 | 清水威郎 |



経済学というと、マクロ・ミクロ・計量経済学といったものをすぐさま思い浮かべがちですが、経済史は経済社会の特質を歴史的に把握することを目指すもので、経済学の重要な柱です。我々小室研究会が力を入れている日本経済思想史は、人間の経済行動を支える背景となる価値観や発想法の面からメスを入れるものです。そこから現代にも通じる現実社会が見えたとき、しばしば目が曇ります。小室教授は、江戸・明治時代が専門で、特に日本経済思想史の第一

人者です。また福澤研究センターの所長もされており福澤諭吉研究にも深い造詣をお持ちです。小室研究会では、実証と理論性については常に厳しく要求されますが、個々の学生の興味は最大限尊重され、きわめて自由でアットホームな雰囲気です。『福翁自伝』に「およそ勉強ということについては実にこの上によろしくないというほどに勉強していました。」というところがありますが、私自身も小室研究会でそんな気持ちになっています。

研究会 [ゼミナール] | 金融経済学 |

前多研究会

「個」の確立在りて、チーム力在り

独自の答えを見つけ出す醍醐味
それを見つけるための「場」を提供したい

わが国の経済は、今まさに激動の時代にあります。なかでも、金融の世界においては、情報技術の高度化、経済のグローバル化を受けて、目覚ましい進歩を遂げています。前多研究会では、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学などのあらゆる分野の経済学を総動員して、金融の研究を深めていきます。経済学を駆使して金融分野の過去と現在の様々な現象を分析し、未来への課題とそれに対する自分なりの答えを見つけ出す醍醐味を味わってもらいたいと思います。

研究会の運営方針としては、ゼミ生の自ら学ぶ自主性に磨きをかけるため、私は可能な限り「聞く」スタンスをとっています。私の役割は、学生が自由闊達な活動を行うための「場を提供する」ことであり、各ゼミ生が地力を自ら求めて最大限まで伸ばしてもらいたいと願っています。

まずは「個」の力となる方法論
終着点は、三田祭での研究発表

4月に入ゼミしてまず、ゼミにおいて研究するテーマを決め、パートと呼ばれるグループに分けます。このパートごとの自主的な活動がゼミ活動の主軸になります。昨年のテーマとしては、金融業における信託スキームの活用、地域金融機関の役割、年金制度改革などが設定されました。「個」の力の基礎となる方法論は、全員が一同に参加する本ゼミやサブゼミにおいて、金融経済学やマクロ経済学のテキストを用いて身に付けます。これらの各ゼミが有機的な相互作用を及すことで、ゼミ全体の教育効果を狙って

ます。パートゼミの終着点は、三田祭における研究発表で、昨年中間報告を重ねることによって培ってきたプレゼンテーション技術を駆使して、若者ならではのダイナミックな報告が行われました。三田祭の後は、各自の研究テーマに沿った卒業論文の作成に取り掛かります。

自分を発揮できる分野で活躍するために
君の可能性に気付いてほしい

私の研究会は、今年の3月に第2期生を社会に送り出しました。3年時に入ゼミしてきた時からの成長ぶりは感慨深いものでした。ゼミ生には、自分を発揮できる各分野で、社会の先導者となってもらいたいと願っています。昨年度は、新しい試みとして、ゼミ生によるディベートを行いました。彼らの予想以上の出来に内心驚き、その潜在的な能力に手応えを感じました。今年も、彼らの数多くの可能性に気付かせるための、秘策を練っています。

(2006年春取材)



前多康男 経済学部 教授

1982年慶應義塾大学経済学部卒業、1990年ミネソタ大学大学院経済学専攻修士課程修了 (Ph.D. (Economics) 取得)。国際大学大学院国際関係学専攻専任講師、大阪大学大学院経済学研究科助教授、同教授を経て、2002年10月から現職。著書に『金融システムの経済学』(東洋経済新報社)、『新しい金融理論』(有斐閣)、『金融機能と規制の経済学』(東洋経済新報社)など。

同じ志を持った仲間たち。 | 経済学部 4年 | 福原壮一 |



当研究会は、今年度4期生を迎え入れ、新しさの中にも、先輩たちが作り上げてきた礎の上に常に新しい風を送り込みながら、現ゼミ生たちが切磋琢磨して研究を行っています。同じ志を持った仲間たちと共に一つの目標に向かって研究を進めていく中で、本ゼミでの研究発表の際には、先生から穏やかでありながらも鋭い指摘を頂くことで、新たな視点が与えられるとともに、より高いレベルへの道筋を示していただいています。三田祭での論文発表に向けて研究を進

めることで、一つのことを成し遂げるための意識と行動力を育てられる環境であると、私は感じています。先生は、普段の研究熱心な学者としての姿だけではなく、テニスやスキーをこよなく愛し、またゼミ生とともに全塾レガッタ大会に参加されるなど、アクティブな一面も持ち合わせていらっしゃいます。夏合宿では、先生が主催するテニス大会が恒例になっており、また、3年と4年の対抗野球大会も開かれます。文字通り文武両道を実践しているゼミです。

[PCP Professional Career Program]

プロフェッショナル・キャリア・プログラム (PCP) について

PCPは、国内外の専門大学院 (professional schools) に進学し、世界的視野に立つ職業人としてのキャリアを築いていくことを目指す学部3・4年生を対象とする経済学部専門課程の中のプログラムです。ここでは、選抜された学生に対し、将来のキャリア形成に役立つ実践的な経済学教育を、少人数クラスでかつ原則英語で提供します。

PCPでは、次のような教育目標の達成を目指しています。

- 基礎となる経済学的な考え方の習得
- 関連する経済学領域の基礎の習得、政策論の分析枠組みの理解
- 数量的分析手法の習得
- フィールドワーク、個別研究を通じての、論文作成、プレゼンテーションも含むリサーチの方法論の学習
- プロフェッショナル・キャリアを見据えた語学スキルの習得

5つの専攻プログラム

PCPでは、2007年度開始分より、5つの専攻プログラムを設けます (*印は2005年度に先行開講されたもの。**印は2006年度より開講のもの)。

- 1) 法と経済*
- 2) ファイナンス**
- 3) 公共政策
- 4) 国際経済*
- 5) 環境経済**

PCPを選択する学生は、これらのいずれかの専攻プログラムを選び、集中的に学習することになります。各専攻プログラム1学年10~30名程度を想定しています。たとえば、国際経済専攻プログラムはつぎのような内容となっています。



	3rd year (Spring)	3rd year (Fall)	4th year (Spring)	4th year (Fall)
Economic theory sequence	Microeconomics Macroeconomics			
Major subject sequence		International Trade International Economic Policy	International Finance Development Economics	
Methodology sequence	Applied Econometrics Presentation and Discussion*	Reading and Composition*	Academic Writing	Fieldwork Independent Study

*は必要に応じた選択。



MICROECONOMICS

PCP MICROECONOMICS

経済理論の基礎を英語で学ぶ

経済理論、とくにミクロ経済学は社会科学のなかでもっとも体系化されています。そしてそれ自体が、世界の共通言語ともいべき性質をもっています。PCPでは、すべてのコースにおいて、ミクロ経済学とマクロ経済学を英語で学ぶことが求められています。

ミクロ経済学は、消費者や企業といった、経済を構成している個々の意思決定主体の合理的な経済行動の分析を基礎に、市場機構の役割やあるべき社会の状態などを考察し、経済社会を理論的に捉えようとするものです。そしてこの授業では、ノートも英語で取り、練習問題や試験の答えも英語で書かなければなりません。すなわち、英語で経済学を考えるのです。それは決して易しいことではありません。多大な努力を要するでしょう。でもこれは卒業後、世界を舞台に活躍することを考えている人にとってはとても重要なことです。世界のさまざまな人々と、現実の経済問題を、経済理論を使って、英語で議論できる能力を身に付けるためのコースです。

英語を話すことのできる人はたくさんいます。現実の経済問題に関心や知識をもっている人もたくさんいます。経済学の理論を身に付けているもたくさんいるでしょう。でも、それらをすべてできる人は多くありません。そういう人を作り出したいと考えています。



教授
グレーヴァ香子



[研究プロジェクト]

研究プロジェクトの目的

研究プロジェクトは、みなさんに学問の方向性をより強く持ってもらうためのコースで、多くの学術的分野において、自発的および積極的に学問を探索してもらうことを目的としています。

研究プロジェクトの概要

種類	誘導展開型、自発展開型の2種類。	
	誘導展開型	自発展開型
	<p>誘導展開型の研究プロジェクトにおいては、教員が研究テーマと研究手段を提示し、これに沿って学生が研究を遂行します。参加する学生は研究プロジェクトを担当する教員が提示するテーマにある程度の基礎知識をすでに持ち合わせていることが求められます。その上で、教員に研究手段および方向性を提示してもらうことにより、与えられた研究テーマを深めることを目的としています。</p>	<p>自発展開型は、研究プロジェクトに参加する学生が研究テーマを設定し、さらには研究を監督してもらう担当教員を指名して行われる授業です。指名された担当教員は、学生の研究が滞りなく遂行できるように学術的な観点からプロジェクトを支えます。このタイプの研究プロジェクトの目的は、学生自らが特定の研究テーマを設定し、さらには、研究の手段と方向性を教員の助けを得ながら模索し研究を完結することにより、ある学問について深い理解を得るということにあります。</p>
対象学生	経済学部3・4年生（共同研究の場合は他学部の学生の参加も可）。研究プロジェクト、PCP、ゼミを同時に履修することもできます。	
担当教員	三田および日吉の経済学部専任教員。	
学問的分野	様々な発展性を秘めた、多岐にわたる学問分野が用意されています。	
開講キャンパス	三田および日吉	
授業形態	基本は少人数（1クラス5人まで）または個人を対象とした授業です。	
開講期間	1年。ゼミとは異なり、研究プロジェクトは1年間で完結させます。	
研究成果	参加した学生は、論文などの形で研究成果を報告することが義務付けられます。研究成果の報告は、毎年度末にシンポジウムを開催して報告されます。また、Webでも公開され長期的に保存されます。これは、研究プロジェクトに参加した学生に、自身の研究成果を大学院進学時や就職を検討している時期に有効かつ容易に活用してもらうためです。	

2007年度のテーマと担当教員・設置キャンパス 誘導展開型

「これまでの都市」と「これからの都市」 長田 進 (日吉)
 自然の利用について考える 河田幸視 (三田)
 医療と病気の近現代史 鈴木晃仁 (三田)
 ユダヤ人問題 羽田 功 (日吉)
 Environment and Development Issues // Art & Fashion パティ、ロジャー (三田)

2006年度 自発展開型 学生の発表テーマ (一部)

「江戸東京の水運の変遷—運河に注目して資料を紐解く—」
 「街における美術館の役割—美術館の歴史と地域開発の視点から—」
 「日本人と庭園—西洋庭園との相違から見た日本庭園の独自性—」
 「1960年代米国の公民権運動の社会的・宗教的要因」
 「ベートーヴェンのピアノ・ソナタの解釈・分析の変遷および比較」
 「存在論的安心の喪失：1990年代の社会問題におけるポストモダンティ」
 「『クロイツナハ・ノート』試論—若き日のマルクスの思想的展開過程に寄せて—」
 「携帯電話のナンバーポータビリティおよびメールアドレスポータビリティの導入に伴うキャリアのシェア変化分析」

2006年度 誘導展開型 学生の発表テーマ (一部)

「小笠原におけるエコツーリズムとエコツアーについて」
 「琵琶湖周辺の水環境保全に対する地域住民組織の可能性—滋賀県伊香郡高月町自治会を事例として—」
 「映画製作プロジェクト」
 「中東系ユダヤ人に見るイスラエル」
 「90年代ハリウッド映画における家族観」



社会保障にかかわるエンピリカル・リサーチ 准教授 山田篤裕

大学院について

経済学研究科

経済学研究科委員長
池尾 和人



「経済学」の高度な専門知識を持った人材を育成する

経済学は、社会科学の中でも最も理論体系的論理的厳密性を誇るものであるがゆえに、「社会科学の女王」と言われてきました。他の社会諸科学の進展ぶりをみると、それは、近年ではやや傲慢な言い方もありません。しかし、きわめて標準化が進んでおり、グローバルに共通の認識枠組みとして機能しているという面では、やはり経済学は傑出しているといえます。実際、今日「マクロ経済学」や「ミクロ経済学」は世界中の人々の共通知識です。その共通知識の上で「為替」や「貿易」についての議論が世界で行われているのです。また各国の中央銀行や経済官庁は、経済学に基づいて国際的に統一された基準によって物価や雇用のデータを集め、それをもとに経済政策を立案しています。近年、アメリカの一流大学院の教室は、中国やインドから経済学を学びに来た熱心な学生たちで溢れています。またずいぶん前から、ラテン・アメリカの国々は国内の優秀な学生を選びすぐって欧米の大学の経済学部で留学させてきました。発展途上国にとって経済問題は死活にかかわることですから、これもうなずけることです。経済問題の重要性は先進国でもわかりません。国民の生活に強い関わりを持つ「経済政策」は、既述のように、経済についての高度な専門知識を持つ人々によって運営されているのです。例えば、アメリカの連邦準備制度議長は、アメリカの金融政策の舵取りをし、またそれを通じて世界経済にも多大な影響を与えています。その行動はとてつもなく大きな意味を持つわけですが、2006年に同議長に新たに任命されたベン・バーナンキは、マクロ経済学の専門家で、長らくプリンストン大学で経済学部教授を務めていた人です。自身が経済学者にまでならなくとも、経済に対して大きな影響力を持つ人には、経済学の不断の勉強が欠かせません。これからグローバルな経済連携はますます深まるでしょう。それにつれて共通知識としての「経済学」の意味がさらに高まることも間違いありません。慶應義塾大学の経済学は、日本で一番長い歴史を持ちます。もちろん、ただ歴史が長いというだけではありません。慶應義塾はこれまで、つねに日本における経済学研究の重要拠点であり、新しい知識の発信地でありました。本塾経済学研究科は、この大切な「経済学」の知識を高い志を持った学生に広め、研究者、実務家を問わず高度な専門知識を持った人材を育成していくことを使命としています。

修士課程・後期博士課程

経済学専攻

[入学定員]

修士課程 70名

後期博士課程 15名

[授与する学位]

修士（経済学）

博士（経済学）



経済学部教員一覧

| 2007年4月1日現在 |



科目	職位	氏名	専門・研究領域
外国語科目	英語	教授	近藤光雄 英語、アメリカ研究
		土屋博政 英米文化思想史	
		鈴木五郎 イギリスルネッサンス文学	
		河地和子 アメリカ、南部アフリカのマイノリティ・イシュー	
		ポールハチェットヘレン 近代日本思想史、日本語	
		杉岡洋子 言語学(生成文法理論・形態論・統語論・意味論)	
		不破有理 アーサー王文学、中世主義	
		松岡和美 理論言語学(第一言語習得、統語論)	
		バティエロジャー 環境経済学、東欧史	
		志村明彦 第2言語習得学、言語学(統語論)	
		エインジマイケル 近代日本文学、比較文学、比較映画研究	
		星浩司 理論言語学(統語論)	
		鈴木亮子 言語学(語用論、歴史言語学)	
		石井明 西洋音楽史、演奏学	
		柏崎千佳子 歴史社会学、市民権	
	佐々木由美 異文化コミュニケーション、会話分析		
	永井容子 英文学(19世紀イギリス小説)		
	ノッターデビット 歴史社会学、教育社会学、家族社会学		
	ドイツ語	教授	伊藤行雄 現代ドイツ文学、比較文化
		八木輝明 近代・現代ドイツ文学	
		羽田功 近現代ドイツ文学、ユダヤ人問題	
		中山純 ドイツ語学、テキスト言語学	
		クナウプハンスヨアヒム ドイツ言語教授法、比較文化論	
		境一三 ドイツロマン主義芸術理論	
		七字眞明 19・20世紀ドイツ文学	
		鈴木直樹 ドイツ語学	
		山本賀代 ドイツ文学	
フランス語		教授	小淵昭夫 19世紀フランス文学、都市論、表象文化論
		西尾修 19世紀フランス文学・思想史	
		後平隆 19世紀フランス文学・政治思想	
	比留川彰 フランス文学		
	林栄美子 フランス現代文学、写真論		
	前島和也 一般言語学		
専任講師	ガボリオマリ フランス語教授法、地域社会研究		
中国語	教授	林田愛 19世紀フランス文学	
	竹内良雄 中国文学		
	長堀祐造 中国近現代文学		
	宇振領 日本語学・中日語言文化比較		
	村越貴代美 中国文学、書誌学		
	千田大介 中国文学、漢字文献情報処理		
准教授	溝部良恵 中国文学		
	岸岸宗一郎 中国近現代文学・比較文学		
	スペイン語	准教授	石井康史 スペイン・ラテンアメリカ文学、比較文学
	八嶋由香利 歴史学・スペイン地域研究		
	工藤多香子 文化人類学、カリブ海地域研究		
	総合教育科目	数学	教授
西岡久美子 数論			
戸瀬信之 数学(代数解析学、超局所解析、多変数関数論)			
桂田昌紀 解析的整数論			
池田薫 数学・数理物理学			
厚地淳 数学(確率過程論、確率解析、幾何学的関数論)			
小木曾啓示 数学・代数幾何学			
宮崎直哉 数学(大域解析学、幾何学)			
心理学			教授
地理学		教授	松原彰子 自然地理学、地球環境論
准教授		長田進 都市地理学、経済地理学	
生物学		教授	岸由二 生態学、科学社会学、地域自然論
		准教授	福山欣司 動物生態学、地域自然研究
長沖暁子 生物学、科学社会学			
物理学		教授	青木健一郎 理論物理学、高エネルギー理論、素粒子理論
化学		教授	清水健一 化学、金属表面化学
国語文学		教授	寺澤行忠 国文学(和歌文学)
歴史学		教授	鈴木晃仁 身体と医療の歴史

科目	職位	氏名	専門・研究領域	
経済理論	教授	長名寛明 理論経済学		
		山田太門 理論経済学、公共経済学、財政学、非営利活動		
		丸山徹 函数解析学、数理経済学		
		塩澤修平 理論経済学、金融理論		
		中村慎助 理論経済学、公共経済学		
		中山幹夫 ゲーム理論と経済学への応用		
		瀬古美喜 理論経済学、都市経済学		
		須田伸一 理論経済学、金融論		
		前多康男 マクロ経済学		
		尾崎裕之 経済動学、数理経済学		
		グレーヴァ香子 ミクロ経済学、ゲームの理論、社会的選択理論		
		准教授	伊藤幹夫 理論経済学、計量経済学	
		石橋孝次 理論経済学		
		津曲正俊 ミクロ経済学、組織の経済分析		
		玉田康成 経済理論、契約と組織の理論		
新井拓児 数理ファイナンス、確率論				
計量・統計	教授	清水雅彦 計量経済学、産業構造分析、産業技術論		
		辻村和佑 計量経済学、資金循環分析		
		マッケンジーコリン 計量経済学		
	准教授	宮内環 統計学、計量経済学		
		秋山裕 統計学、計量経済学、国際経済・地域研究		
		河井啓希 応用計量経済学		
助教	田中辰雄 計量経済学、経済発展論、技術変化の経済分析			
	中妻照雄 計量経済学、ベイズ統計学			
	赤林由雄 計量経済学、産業連関分析			
学史・思想史	教授	小室正紀 日本経済思想史、日本経済史、文化史		
		坂本達哉 社会思想		
		高草木光一 近代フランス社会思想史		
	准教授	池田幸弘 経済学史、経済思想史		
		神代光朗 経済学史、中・東欧史		
		篤木能雄 社会思想史、日本近・現代社会思想史		
経済史	教授	杉山伸也 日本経済史、アジア経済史		
		矢野久 ドイツ社会史、社会経済史		
		古田和子 アジア経済史		
	准教授	柳沢遊 近現代日本経済史		
		長谷川淳一 日英戦後史		
		飯田恭 西洋経済史、ドイツ農村社会経済史		
崔在東 ロシア経済史				
産業・労働	教授	中澤敏明 産業組織		
		渡辺幸男 工業経済論、中小企業論、日本経済論		
		寺出道雄 農業経済論		
	准教授	赤林英夫 労働経済学、応用ミクロ経済学		
		山田篤裕 社会政策、労働経済学		
		制度・政策	教授	吉野直行 金融財政政策、マクロ経済学
大村達弥 経済政策、公共選択論、規制経済論、テレコム経済論				
池尾和人 日本経済と金融				
准教授	矢野誠 公共経済学、理論経済学			
	金子勝 制度経済学、財政学、地方財政論			
	駒村康平 社会政策			
藤田康範 経済政策、経済理論				
土居丈朗 経済政策、財政学				
現代経済	教授	北村洋基 現代日本経済論		
		植田浩史 現代資本主義論、日本資本主義発達史		
		近充 現代資本主義論		
	准教授	駒形哲哉 中国経済論、比較経済体制論		
		大平哲 開発経済学、経済発展の理論的側面		
		国際経済	教授	高梨和紘 国際経済学、開発経済学
竹森俊平 国際経済学				
嘉治佐保子 国際マクロ経済学、欧州経済				
准教授	木村福成 国際貿易論、開発経済学			
	櫻川昌哉 国際金融			
	若杉隆平 国際経済学、産業・技術経済学			
白井義昌 国際経済学、経済理論				
環境関連	教授	杉浦章介 経済地理学、都市地理学、アメリカ研究		
		細田衛士 環境経済学、理論経済学		
		大沼あゆみ 環境経済学、理論経済学		
	准教授	武山政直 経済地理学、立地空間論		
		社会関連	教授	倉沢愛子 東南アジア社会史
			津谷典子 社会人口学、人口統計学、家族社会学	
清水透 ラテンアメリカ社会史				

専門教育科目

平成18年度経済学部卒業生の進路

| 2007年4月30日現在 |

就職先 | 上位会社名 |

順位	会社名	人数	順位	会社名	人数
1	みずほフィナンシャルグループ	58	23	アクセンチュア	7
2	大和証券エスエムピーシー	24		トヨタ自動車	7
3	東京海上日動火災保険	23	25	JTB首都圏	6
4	三菱東京UFJ銀行	22		住友信託銀行	6
5	損害保険ジャパン	15		大和総研	6
6	第一生命保険	14		日本生命保険	6
	三井住友銀行	14		野村不動産	6
8	新日本監査法人	13	30	キャノン	5
	日興コーディアル証券	13		サントリー	5
	野村證券	13		住友不動産	5
	三菱UFJ信託銀行	13		全日本空輸	5
12	三井トラストフィナンシャルグループ	12		日本航空インターナショナル	5
	三井物産	12		日本政策投資銀行	5
14	NTTデータ	11		東日本旅客鉄道	5
15	あずさ監査法人	9		富士通	5
	大和証券	9		ブリヂストン	5
	三井住友海上火災保険	9		松下電器産業	5
18	伊藤忠商事	8		みずほインベスターズ証券	5
	住友商事	8		横浜銀行	5
	電通	8		りそなグループ	5
	丸紅	8			
	三菱商事	8			

大学院等進学状況

進学者数	62
うち大学院進学者	59
うち大学進学者	3

国家公務員合格者の主な入省先

省庁名など	性別	試験種別など	試験区分など
総務省	男	国家I種	法律職
金融庁	女	国家I種	経済職
厚生労働省	男	国家I種	経済職
経済産業省	男	国家II種	その他事務職
農林水産省	女	国家I種	経済職
国税専門官	男	その他	その他
国税専門官	男	その他	その他
国税専門官	男	その他	その他

上場企業のトップになれる大学・学部ベスト5

| PRESIDENT 2005年5月16日号・2006年10月16日号より引用 |

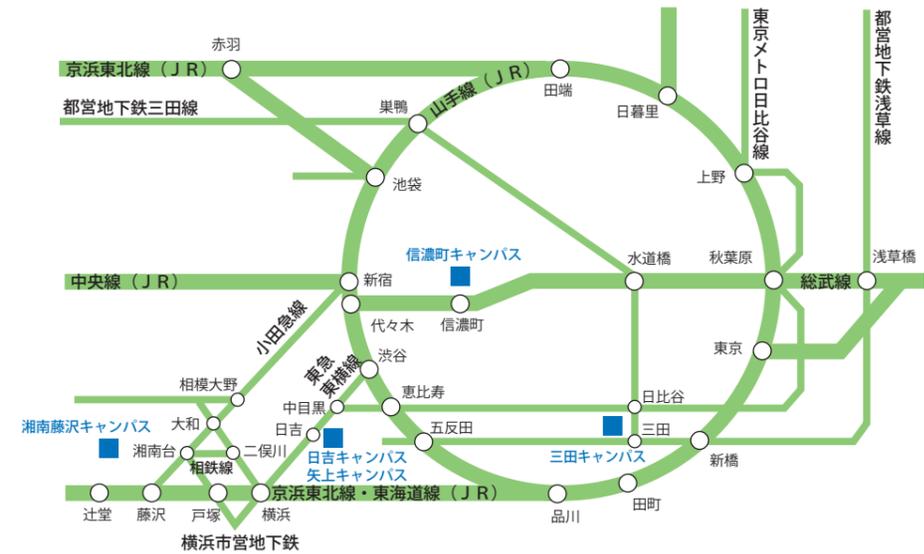
役員

1985		1995		2006	
大学名・学部名	人数	大学名・学部名	人数	大学名・学部名	人数
1 東京大学・法学部	1578	1 東京大学・法学部	991	1 慶應義塾大学・経済学部	591
2 東京大学・工学部	1226	2 慶應義塾大学・経済学部	930	2 東京大学・法学部	412
3 東京大学・経済学部	1120	3 慶應義塾大学・法学部	729	3 慶應義塾大学・法学部	409
4 慶應義塾大学・経済学部	894	4 早稲田大学・理工学部	580	4 慶應義塾大学・商学部	303
5 一橋大学・東商大出身	658	5 東京大学・工学部	579	5 早稲田大学・政経学部	296

社長

1985		1995		2006	
大学名・学部名	人数	大学名・学部名	人数	大学名・学部名	人数
1 東京大学・法学部	154	1 東京大学・法学部	151	1 慶應義塾大学・経済学部	109
2 東京大学・工学部	114	2 東京大学・工学部	100	2 東京大学・法学部	73
3 東京大学・経済学部	99	3 慶應義塾大学・経済学部	92	3 慶應義塾大学・法学部	67
4 慶應義塾大学・経済学部	78	4 東京大学・経済学部	81	4 慶應義塾大学・商学部	57
5 一橋大学・東商大出身	65	5 慶應義塾大学・法学部	80	5 東京大学・経済学部	47

慶應義塾アクセスマップ



日吉キャンパス

〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1
 日吉キャンパス事務センター運営サービス担当
 TEL. 045-566-1000 (直)
 東急東横線「日吉」駅下車(徒歩1分)
 渋谷-日吉=約25分(急行約20分)
 横浜-日吉=約20分(急行約15分)
 新横浜-日吉=約20分

三田キャンパス

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
 入学センター TEL. 03-5427-1566 (直)
 JR山手線・京浜東北線「三田」駅下車(徒歩8分)
 都営地下鉄浅草線・三田線「三田」駅下車(徒歩7分)
 都営地下鉄大江戸線「赤羽橋」駅下車(徒歩8分)
 東京-三田=約10分/上野-三田=約20分
 渋谷-三田=約15分/水道橋-三田=約15分



慶應義塾大学経済学部 学部案内

2007年7月30日発行

発行所：慶應義塾大学経済学部
 〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
 TEL 03-3453-4511 (代)
<http://www.econ.keio.ac.jp/>

発行人：塩澤修平
 編集人：白井義昌、不破有理
 制作：(有)梅沢印刷所